

日中醫學交流

JAPAN - CHINA MEDICAL COMMUNICATION

30周年紀念特輯 / 30周年記念特集

30周年歴史回顧 / 30周年の歩み

30周年特別鼎談：中日医学医療の可能性 / 30周年特別鼎談：日中医学医療の可能性

交流活動紹介 / 交流活動報告（2020年1月～2020年12月）

赴日研修感想 / 日本研修所感



大坪会集団/大坪会グループ

2020.

第1期

30周年紀念刊

NPO法人 日中医学交流中心
NPO法人 日中医学交流センター
JAPAN-CHINA MEDICAL COMMUNICATION CENTER



日立体外诊断产品系列

HITACHI
Inspire the Next



3110 全自动生化分析仪
•中文操作系统
•测定速度：
最高600测试/小时



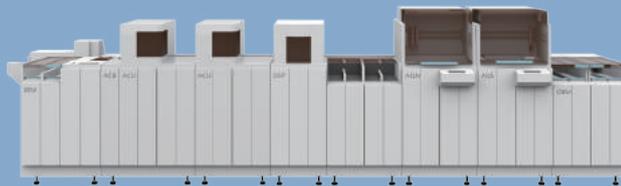
LABOSPECT 008AS全自动生化分析仪
•测定速度：
最高8600测试/小时



3500 全自动生化分析系统
•测定速度：
最高1200测试/小时

LABOSPECT 006全自动生化分析仪

•测定速度：
最高1900测试/小时



日立样品前处理系统PAM



日立样品检查自动化系统LABOSPECT TS

日立的仪器很稳定，运营成本低，而且越来越人性化



集服务于全球检验界数十年的工作经验，充分体现日立为客户着想和全力服务检验科的一贯原则，结合以提高客户的综合管理水平和全面检验质量为目的的大潮流，推动全新理念的新时代系列综合临床生化检验系统。

株式会社 日立高新技术

日立诊断产品（上海）有限公司

地址：日本国东京都港区
虎之门一丁目17番1号
电话：(81) 3-3504-7111
传真：(81) 3-3504-7754

上海总部
地址：上海恒生银行大厦21层
电话：86-21-6163-1200
传真：86-21-6841-5420

北京分公司
地址：北京发展大厦1408室
电话：86-10-6590-8700
传真：86-10-6590-8710

广州分公司
地址：广州海航大厦704室
电话：86-20-8666-9382
传真：86-20-8668-7002

大连分公司
地址：大连森茂大厦10层
电话：86-411-8360-7098
传真：86-411-8360-7998

西安分公司
地址：西安秦唐12栋8号楼
电话：86-29-8799-9253
传真：86-29-8799-9251

日中醫學交流

JAPAN-CHINA MEDICAL COMMUNICATION

2020年
第1期

目录 / 目次

日中医学交流中心30周年致辞/日中医学交流センター30周年祝辞・挨拶

- 中国驻日本大使馆 杨宇首席公使 / 中国駐日本大使館首席公使 楊宇……………2
中心会长 大坪修先生 / 日中医学交流センター会長 大坪 修……………3
中心副会长 巴德年先生 / 日中医学交流センター副会長 巴德年……………4

30周年纪念特辑/30周年記念特集

- 30周年历史回顾 / 30周年の歩み ……………5
30周年特别鼎谈：中日医学医疗的可能性 / 30周年特別鼎談：日中医学医療の可能性… 10

交流活动介绍/交流活動報告（2020年1月~2020年12月）…………… 18

赴日研修感想/日本研修所感

- 黄立江医生（国立癌研究中心中央医院）/黄立江先生（国立がん研究センター中央病院）… 20

日本医学会信息/日本医学会情報

- 2021年4月~2022年3月/2021年4月~2022年3月 …………… 22

封面设施介绍/表紙施設紹介

- 大坪会集团/大坪会グループ …………… 24

赞助一览/協賛団体

- 株式会社日立高新技术/株式会社日立ハイテク…………… 表2
日本米诺发源制药株式会社/株式会社ミノファージェン製薬…………… 21
EPS益新株式会社/ EPS益新株式会社 …………… 表3
协和麒麟株式会社/協和キリン株式会社…………… 表4

日中医学交流

2020年第1期（总第94期）2021年4月30日发行

发 行 NPO法人 日中医学交流中心（<http://www.jcmcc.or.jp>）
邮编 162-0821 東京都新宿区津久戸町1-8 神乐坂AK大厦1F
TEL : +81-3-6280-8938 FAX: +81-3-6280-8937

咨询&联系方式 邮箱 : jcmcc01@jcmcc.or.jp



微信公众号
“日中医学交流”

中国驻日本国大使馆首席公使杨宇 致日中医学交流中心成立30周年特刊贺辞



NPO法人日中医学交流中心：

值此贵中心成立30周年之际，谨致以热烈祝贺！

日中医学交流中心自1991年成立以来，携手中日两国医疗界的精英，30年如一日，致力于加强两国卫生健康领域合作交流，为推动两国相关领域的专家、管理人员及医护人员间的互访和研修等搭建起了坚实的桥梁，取得了丰硕成果。

2003年非典和2008年汶川大地震之时，贵中心联合日中友好团体募集大量救灾物资，有力支援了我抗灾救灾和恢复人民日常生活。过去的一年是非常不平凡的一年，面对迅猛的新冠疫情，中日两国守望相助，共克时艰，谱写了新时代两国卫生健康领域合作交流的新篇章。以贵中心为代表的日中友好团体在促进两国共同应对新冠疫情、夯实两国民意基础等方面发挥了积极和重要作用。

在此，对贵中心的创立者、全体成员以及为推动中日医学合作交流呕心沥血的友好人士表示由衷的敬意和诚挚的谢意。

中日作为“一衣带水”的邻邦，医学交流源远流长，并共同传承和发扬了中国传统医学，为世界医学发展作出了重要贡献。当今世界医学发展日新月异，中日两国的医疗领域的合作交流也将迈入新的阶段，求合作共谋发展是大势所趋。

中国有一句古语叫“三十而立”，期待贵中心百尺竿头，更进一步，继续发挥桥梁纽带作用，积极推动中日医疗及卫生事业的发展，不断增进两国人民健康与福祉，在新的一年里谱写新的篇章。

中华人民共和国驻日本国大使馆首席公使

杨宇

2021年2月22日

中国駐日本国大使館首席公使楊宇 日中医学交流センター設立30周年に寄せて

この度の貴センター設立30周年にあたり心よりお祝い申し上げます。

日中医学交流センターは1991年に設立以来30年間たゆまず、中国と日本の医療分野におけるリーダーの方々との協力し、両国の卫生健康分野における交流を強化するため、関連領域の専門家、管理部門リーダー、医療看護関連の人員交流及び研修を通じ、両国間の確固たるかけ橋となり、大きな成果を上げて参りました。

2003年のSARS及び2008年の四川大地震の際には、貴センターが中心となり、日中友好団体と協力して多大なる救済物資を調達し、災害救援と現地の日常生活の回復へ強力な支援をいただきました。

昨年は非常に特別な年となりました。急激な新型コロナウイルス感染症の拡大に際し、中国と日本はお互いに助け合い、困難を克服し、卫生健康分野における新しいパートナーシップの幕開けとなりました。貴センターを代表とする日中友好団体は、新型コロナウイルス大流行に対し両国の相互協力を促進し、両国の世論基盤を強化する上で積極的かつ重要な役割を果たして参りました。

改めまして、センターの創設者、スタッフの皆様、中日の医療協力・交流の推進にご尽力いただきました関係者の皆様に心より敬意と感謝を申し上げます。

中国と日本は、「一衣帯水」の隣国として、長い医学交流の歴史を持ち、中国伝統医学をお互いに受け継ぎ、世界医学の発展に大きく貢献してきました。今日の世界における医療の急速な発展に伴い、中日の医療分野における協力と交流も新たな段階に入り、手を携えて共に発展していくことが求められます。

中国には「30にして立つ」という古いことわざがありますが、これからも貴センターが更なる発展を遂げ、両国の架け橋としての役割を果たし、中日両国における医療と健康事業の発展を積極的に推進し、両国の人々の健康と福祉環境の改善に寄与し、新しい時代を開かれることを期待しております。

中華人民共和国駐日本国大使館首席公使
楊宇

2021年2月22日

ご挨拶



地球が誕生して45億年。そして生物が生まれ、ある種は絶滅し、新しい種が出現する。その中で人類が進化し地球を支配するようになったのは医療の力といっても過言ではないと思います。人間と他の動物との差は、外傷や病になったとき他の動物はその体の自然の治癒力によるしかなく、弱肉強食で淘汰されるが、人間は積極的に治療を行う事ができる、という技術を身に付け今日の人類が繁栄した理由ともいえます。

同時に、国家間の交流で一番大きな成果は、実はお金や文物ではなく薬や医療技術である、と私は思います。

日本も中国より文字や薬を導入し、東洋医学の医療の神である神農信仰も中国と同じでつい最近まで続いていました。

現に15代続いてきた家内の父は、床の間に神農像の掛け軸を掛けており、毎日朝に拝んで一日が始まり、手術するときにもお祈りして手術室に入って行ったことが昨日のように思い出されます。

中国における女医会の設立、そして国際女医会の参加に、本会の前副会長兼事務局長朴順子（平山順子）さんや大坪公子が努力したことは忘れられない事です。

今回の世界的に蔓延したコロナ渦、そして完全に封じ込みに成功した中国、東南アジア諸国も感染者数・死亡者数が少なく今日に至っているのも、同じDNAによるものか、コロナの種類によるものか、いずれにせよ同じ身内みたいな関係かと思えます。

数年前の重症急性呼吸器症候群（SARS）の流行後、東大医科研が北京やハルビンに大学の研究室を借用して共同研究がなされていました。

今回のコロナ渦は、文明とグローバル化が進み、治療と予防に国家間の協力が必要であり、お互いに協力していかなければ人類が生き残るどころか、環境破壊につながる事も起きています。文明が一番進んでいたアメリカが皮肉にもコロナ患者も最悪という事実は、文化が進むほど自然破壊も比例して起きてくる、その防止には、政治・宗教・人種の差を乗り越えて国際協力が必要であるという神の警告でもあるのではないのでしょうか。

日中が人類で一番大切な健康を守る医療を中心として、今後も協力を盛んにして、国際協力のモデルとなるくらいの意識で日中友好協力を進めるべきだと考えています。

皆様のご協力をよろしくお願い致します。

日中医学交流センター
会長 大坪 修

会長寄语

地球誕生已经45亿年。生物繁衍，有物种灭绝，又有新的物种出现。在这个过程中人类逐渐进化进而支配地球，我认为将其归功于医疗的力量也不为过。人类与其他动物的区别在于，外伤或生病时动物只能依靠自身的治愈能力，在弱肉强食中遭受淘汰，相比之下，可以说正因为人类掌握了积极治疗的技术，才有了今日的繁荣。

同时，我认为国家之间交流的最大成果，其实不是金钱或文物，而是医药和医疗技术。

日本也从中国引进文字和药物。在日本，东方医学的医疗之神——神农信仰也与中国一样一直持续到最近。

行医世家第15代的岳父在壁龛*上的挂画就是神农像，现在回想起来，他每天早晨参拜和进手术室前祈祷的情景还历历在目。

中国女医师协会的成立和加入国际女医师协会，离不开本中心前副会长兼事务局长朴顺子（平山顺子）与前副会长大坪公子等人的努力。

如今新冠疫情在世界蔓延，通过彻底封城而成功抑制疫情的中国、还有东南亚诸国的感染人数·死亡人数都相对较少，这大概是源于相同的DNA、亦或许是因为病毒的种类吧，在我看来我们情同手足。

早些年非典（SARS）疫情结束后，东京大学医科学研究所曾在北京和哈尔滨借用大学的研究室进行过共同研究。

此次疫情发生在文明与全球化不断发展的今天，治疗与预防需要国家间的协作，没有了这种协作人类不仅面临生存危机，还会引发破坏环境的连锁反应。而在文明最为发展的美国，新冠患者情况却最为恶劣，这一事实尤为讽刺。我想，这大概也是上天在警告，文明越是发展自然破坏也随之发生，为防患于未然，我们有必要跨越政治·宗教·种族的差异，进行国际间的协作。

在我看来，中日两国应以守护人类最重要的健康之医疗为中心，今后进一步加强协作，推进中日两国友好合作，争取成为国际合作的典范。

在此，衷心希望能得到各方人士的支持和帮助。

*壁龛：日式客厅中的凹间。

日中医学交流中心
会长 大坪 修

副会长寄语



日中医学交流中心成立于1991年，今年正好迎来30周年。中心得以成立，与一位来自中国的女医生的努力付出密不可分，她便是大家熟知的朴顺子医生。可以说中心今天的发展与成就，朴顺子功不可没。

我与朴顺子相识是在哈尔滨医科大学任教的时候，当时她还是一位立志成为医生的医学生。毕业后，她在北京的医院积累临床经验，之后到日本留学。

我在1990年被派往驻日本中国大使馆教育处任职时与朴顺子重逢，彼时她结束留学深造，正面临回国与否的抉择。考虑到当时中国与日本在医疗领域的差距，我找她谈话，建议她留在日本，作为中日医学交流的窗口，将日本医疗的先进理念、最新医疗·医药·器械信息等介绍到中国。

几番考虑后，朴顺子放弃了回国的强烈愿望，留日就任新设立的中华医学会东京联络处首席代表。1991年，在当时中国驻日本大使杨振亚先生、宇都宫德马先生等中日有识之士的支持与帮助下，中华医学会东京联络处在东京代代木正式成立。次年，联络处改名为日中医学交流中心，经朴顺子留学东京大学时的恩师冈博先生介绍，由一宫胜也先生任第一任会长，朴顺子任事务局长（后副会长）。

出于对朴顺子诚实人品和她对中日医学交流的付出与努力的认可，自中心成立以来我一直担任副会长，尽绵薄之力支持、帮助她。

朴顺子20余年如一日，献身于日中医学交流中心的运营与事业发展，搭建起中日两国医学交流的坚实桥梁。非常遗憾的是，她因病于2013年离开了人世。此后，在大坪修会长、周壮理事长等中心成员的不懈努力和中日两国医疗界的支持帮助下，中心不断发展壮大，为中日两国医疗健康领域的合作交流、人才培养和中日友好方面作出了应有贡献。

迎来成立30周年之际，中日两国的医疗合作也将迈入新的阶段，期待中心锐意进取，继往开来，为中日两国的医学交流作出更大贡献。希望大家多多支持。

日中医学交流中心 副会长

巴德年

2021年2月

ご挨拶

日中医学交流センターは1991年に設立され今年、30周年を迎えました。センターを語るには中国から来た一人の医師の存在に触れずにはいられません。皆さんご存じの朴順子先生です。今日のセンターの発展と成功は彼女なくてはなしえなかったとも言えるでしょう。

朴順子先生との出会いは私が教鞭をとっていたハルビン医科大学。当時、彼女は医師を志す学生でした。その後、朴順子先生は北京の病院で医師としてのキャリアを積み、日本へ留学。

1990年に私が中国大使館の教育部に赴任した際に、朴順子先生に再会しました。

当時、彼女は日本での研究を終え、中国へ帰国するかどうか悩んでいました。あの時代、日本と中国の医療レベルの差は大きく、私は彼女に日本に残り、中日医学交流の窓口となり、日本の医療の先進理念、最新医療医薬、医療機器情報を中国に紹介してほしいと伝えました。

彼女は悩んだ挙句、日本に残ることを決め、ちょうど、中華医学会の東京事務所が新設されることになり、彼女は首席代表に就任しました。

1991年に当時の中国大使館の楊振亜大使や宇都宮徳馬先生など中日有識者の協力を得て、東京代代木に中華医学会東京事務所（日中医学交流センターの前身）を設立し、1992年には日中医学交流センターに名称を変更。東京大学の恩師であった岡博先生によりご紹介いただいた一宮勝也先生が初代会長、朴順子先生は事務局長（後に副会長）となりました。

私自身も朴順子先生の誠実な人柄、日中医学交流にかける熱い思いに賛同し、設立時より副会長として微力ながらお手伝いさせていただいてまいりました。

朴順子先生は20数年にわたり、センターの運営と事業の発展に貢献され、中日両国の医学交流における懸け橋を築きました。残念ながら朴順子先生はその後、病に倒れ、2013年帰らぬ人となりました。彼女亡きあとも、大坪修会長、周壮理事長をはじめ、多くの関係者のご尽力によって日中医学交流センターは継続的に発展し、中日両国の医療健康領域における交流や人材育成に大きな貢献をされております。

30周年を迎えるにあたり、中日両国の医療協力も新しいステージに入り、センターも時代の変化に応じながらも、努力を続け、これからも日中両国の医学・医療の発展のために貢献されることを願っております。皆様、今後ともより一層のご協力のほど宜しくお願い致します。

日中医学交流センター副会長

巴德年

2021年2月

日中医学交流中心30周年的历史回顾 日中医学交流センター30周年の歩み



①	②	③
④		⑤
⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪

① 1991年中心成立時一宮勝也先生(左)と宇都宮徳馬先生(右)
1991年センター設立時の一宮勝也先生(左)と宇都宮徳馬先生(右)
② 2007年CCTV訪日団
2007年のCCTV訪日団
③ 2005年护理研修団
2005年看護師研修団
④ 1996年在北京人民大会堂举办的理事会・总会
1996年中国北京中国人民大会堂にて開催された理事会総会の記念写真
⑤ 1990年代的吳階平先生(左)と朴順子事務局長(右)
1990年頃の吳階平先生(左)と朴順子事務局長(右)
⑥ 1990年代と宇都宮徳馬先生(右3)合影
1990年頃宇都宮徳馬先生(右から3人目)を囲む

⑦ 2005年日本护理学校協議会訪華団訪問青島大学附属医院
2005年日本看護学校協議会訪華団が青島大学附属病院を視察
⑧ 1990年代の宇都宮徳馬先生(左)と巴徳年先生(右)
1990年頃の宇都宮徳馬先生(左)と巴徳年先生(右)
⑨ 2011年访问北京的中村祐輔先生(左)と巴徳年先生(右)合影
2011年北京を訪れる中村祐輔先生(左)と巴徳年先生(右)
⑩ 2009年中心理事到大使館表敬訪問
2009年中国大使館を表敬訪問する理事
⑪ 2019年在东京召开的理事会・总会后的联谊会
2019年東京での理事・総会後の懇親会

年代	1991	1992	1993	1994	1995	1998	1999
日中医学交流中心大事記 日中医学交流センターの出来事	<p>事務所を代々木の「宮ビル」におく 中国との関係部署と協力し、医療機器等を中国各地の医療施設に提供開始 宇都宮徳馬先生、一宮勝也先生、朴順子先生が中心となり中国衛生部所属の中華医学会東京連絡事務所を開設 以宇都宮徳馬先生、一宮勝也先生、朴順子女士为中心，开设中国卫生部下属中华医学会驻东京联络处</p>	<p>吴階平先生が名誉会長に就任 『日中医学交流センター』へ名称変更。一宮勝也先生が初代会長、朴順子先生は副会長兼事務局長、宇都宮徳馬先生、 宮徳馬先生、吳階平先生就任名誉会長 改名为『日中医学交流中心』、一宮勝也先生就任第一任会長、朴順子女士就任副会長兼事務局長、宇都</p>	<p>当センター機関誌「日中医学交流」を創刊 日中医学交流中心会刊『日中医学交流』創刊</p>	<p>中国中華予防医学会の東京事務所を当センター内に設置 中国中華予防医学会東京联络处开设在本中心</p>	<p>9月9日東京にて、「日中東方医学交流と発展」講演会を日中友好協会と共同主催にて実施 9月9日と日中友好協会共同主办以『日中東方医学交流与法阵』为题的演讲会 日中医学交流センターの公益法人化に向けて北京人民大会堂にて定期理事会を開催 为推动本中心的公益法人化，在北京人民大会堂召开定期理事会议 发生阪神淡路大地震 阪神淡路大震災発生</p>	<p>田病院院長が発表した 10月12日 北京にて心臓臨床外科報告会を実施。当センターの庄司佑副会長（日本医科大学元校長）藤崎寿路先生（成 田病院院長）发表演讲 10月12日在北京举办心脏临床外科汇报会。本中心庄司佑副会長（原日本医科大学校长）藤崎寿路先生（成 日本病院管理研究協会と共同で日本病院管理教材を編集し、中国の病院院長を対象とした病院管理研修会を実施 编辑日本医院管理教材，举办以中国医院院长为对象的医院管理培训</p>	<p>東京都よりNPO法人の認可を受ける（特定非営利活動法人） 被东京都认定为NPO法人（特定非营利活动法人）</p>



朴順子女士（创办人）
 1991年 创立日中医学交流中心。就任副会長兼事務局長
 2013年7月逝世
朴順子先生（創設者）
 1991年 日中医学交流センター設立。副会長兼事務局長に就任
 2013年7月逝世



宇都宮徳馬先生（名誉会長）
 日本政治家
 米诺发源制药创始人
 2000年7月逝世
宇都宮徳馬先生（名誉会長）
 日本政治家
 ミノファーマ製薬創始者
 2000年7月逝世



一宮勝也先生（第一任会長）
 作为第一任会长免费提供办公室，努力为中国医学事业做出贡献
 2002年12月逝世
一宮勝也先生（初代会長）
 初代会長として事務所を無償提供し、中国への医学貢献に尽力された
 2002年12月逝去



吳階平先生（名誉会長）
 有吳階平医学基金会等为中国医学发展做出贡献的冠名的医学相关基金会及奖项
 2011年3月逝世
吳階平先生（名誉会長）
 吳階平医学基金会など中国医学の発展に寄与した氏の名を冠した医学関連基金、賞がある
 2011年3月逝去



会刊『日中医学交流』創刊时为季刊，编辑部设在北京的中日友好医院内，主要承担将日本的医学相关信息翻译成中文向中国国内传递的作用
 機関誌「日中医学交流」は当初年に4回発行されており、編集部は北京、中日友好病院内にあった。主に日本の医学情報を中国語に翻訳し伝える役割を担った



北京中医药大学校长 龙致贤先生（中）
 北京中醫藥大學校長 龍致賢先生（中）



医院管理培训教材
 病院管理研修会の教材



照片中，右4为庄司先生，右3为藤崎先生
 写真右から4人目が庄司先生、3人目が藤崎先生

TIPS①

朴（平山）順子女士

为日中医学交流中心的创立作出重大贡献的朴順子女士，爱着中日两国，也为众人所爱戴

朴（平山）順子先生

日中医学交流センターの設立に大きく貢献された朴順子先生は日中兩國を愛し、多くの方に愛された



1995年7月 朴順子事務局長积极参与中国女医师协会的创立（右2为朴順子事務局長）
 1995年7月 朴順子事務局長が設立に大きく貢献した中国女醫師協会が設立された（写真右から2人目が朴順子先生）

2000 2001 2003 2004 2005 2006 2007

2000 中国の看護師訪日研修を開始（一葉看護学院&医療法人鳳生会成田病院）
 开始接收中国护士的赴日培训（一叶看护学院&医疗法人凤生会成田医院）

2001 医療機器提供事業に代わって人的・学術的交流が活動の中心となる
 活动的重心由医疗设备提供业务转向人员・学术交流

2003 SARS発生
 水島裕先生が第2代会長に就任
 水島裕先生就任第二任会长



水島裕先生 (第二任会长)
 医生・政治家
 2008年5月逝世

水島裕先生 (第2代会長)
 医師・政治家
 2008年5月逝去

2004 法人会員・個人会員の募集を開始
 开始募集法人会員・個人会員

平山郁夫先生が名誉会長となる
 平山郁夫先生就任名誉会长

水島裕会長が「中国科学技術進歩賞」を受賞
 水島裕会长获「中国科学技术进步奖」



平山郁夫先生 (名誉会长)
 日本の画家
 2009年逝世

平山郁夫先生 (名誉会長)
 日本画家
 2009年逝去

2005 当センターの中国PLDD研修基地を北京垂楊柳医院に開設
 在北京垂楊柳医院开设本中心的中国PLDD培训基地

当センター内に中華人民共和国衛生部中日友好医院日本東京事務所を設置
 在本中心设立「中华人民共和国卫生部中日友好医院日本东京联络处」



2005年2月 签约仪式
 中日友好医院院长 许树强（前左）
 水島裕会長（前右）
 2005年2月、調印式の様子
 （前列左、中日友好医院の許樹強院長、右は水島裕会長）

2006 中国大使館にて当センター設立15周年記念講演会・記念パーティーを開催
 在中国駐日本大使館举办本中心成立15周年紀念演講會・紀念招待會

中国国家外国專家局が定める国際人材交流サービス国外機構への認定資格を受ける
 提交关于中国国家外国专家局认定的国际人才交流服务境外机构的申请



王毅特命全權大使在大使館召開演講會上致辭
 大使館で行われた記念講演会で挨拶する王毅特命全權大使

2007 医療法人社団日中友好医院が渋谷区代々木駅前を開院、当センターが設立に協力
 协助医疗法人社团日中友好医院在涩谷区代代木车站前正式开业



与水島裕会長、王毅大使を囲んで記念撮影
 与水島裕会长、王毅大使を囲んで記念撮影



非典時捐贈の救援物資
 SARSの際の支援物資



中日友好医院副院长刘晓勤先生(左)
 水島裕会長(中)朴順子事務局長(右)
 中日友好病院副院長劉曉勤先生(左)水島裕会長(中)と朴順子先生(右)



中日友好医院被指定为2008年北京奥运会外国选手接收医院，为帮助日中友好医院培养护理人才，从2005年10月开始每三个月接收来日研修护士8名，持续三年共培养100名
 2008年北京五輪の外国人選手受け入れ病院として指定された中日友好病院に協力し、2005年10月から8名ずつ3か月間の訪日研修をサポート。3年間で100名の臨床看護師を受け入れた



2004年、在国际女医生会议上的朴顺子事务局长（左3为朴顺子事务局长）积极参加中心的公关活动
 2004年の国際的な女性医師の会合にも中国と日本を代表し参加。対外活動にも積極的に参加しセンターを自らピーアール(左から3人目が朴順子先生)



2011年9月、在哈尔滨医科大学参加名誉教授授予仪式的中村祐辅(右7)先生与朴顺子事务局长(右5)重视与母校的交流
 2011年9月、ハルビン医科大学にて名誉教授授与式に参加する中村祐輔先生(右から7人目)と朴順子事務局長(右から5人目)母校との交流を大切にされていた



2013年7月、日中医学交流中心创始人朴顺子女士逝世。在中国和日本举办朴顺子副会长的追思会。在日本的追思会由大坪修会长任主办人代表，包括中国大使馆韩志强公使在内的众多相关人员到会追思了逝者
 2013年7月、日中医学交流センター創設者朴順子先生逝去。朴順子先生を送る会が同年秋に日本、中国で開催され、日本では大坪修会長が発起人代表を務められ、中国大使館をはじめ、多くの関係者が個人を偲んで集まった

2008

大坪修先生が第3代会長に就任
大坪修先生就任第三任会長
などを寄贈
四川大地震発生時、日中友好協会と共同で中国赤十字へ460万円の義援金と、3000万円相当のテント、消毒剤
価値2300万円の帐篷消毒液等援助物資
四川汶川大地震発生時、为救援灾区与日中友好协会共同举办义捐活动、向中国红十字会捐款460万日元及
发生汶川大地震 四川大地震発生



大坪修先生
(第三任会長)
大坪修先生
(第3代会長)



贈到中国の帳
中国に寄贈されたテント

2010

10月、メディカルツーリズムの高まりを受け、センター内で医療通訳養成講座をオープン
10月、为应对医疗旅游业的兴起、中心开设的医疗翻译学习班开课
6月28日〜7月1日にかけて日本の製薬企業を中心に中国医薬産業視察団を主催し、上海・北京を訪問
6月28日〜7月1日、组织以日本制药企业为中心的中國医疗产业考察团访问上海、北京
6月、事務所を飯田橋明成ビルへ移転
6月、办公室迁址至飯田橋明成ビルへ移転



到卫生部表敬访问的考察团(前左三、左二为大坪会长及夫人)
卫生部を表敬訪問する視察団(前列左から3人目、2人目が大坪修会長・夫人)



医疗翻译学习班上课场景
通訳養成講座の様子

2011

12月、創立20周年記念講演会を中国大使館で開催
12月在中国駐日本大使館、举办本中心成立20周年紀念講演活動
8月、当センター事務所を新宿三井ビル2号館に移転
8月、办公室迁址至新宿三井大廈2号館
发生东日本大地震 東日本大地震発生



2011年12月、我中心在中国大使館与大使館共同主办以【二十一世紀の日中医疗合作-跨越国界与地域】为題的研讨会。研讨会结束后、在大使館宴会厅举办的招待会上、当时的中国大使館韩志強臨時代表发表贺辞
2011年12月、中国大使館で「二十一世紀の日中医療協力—国と地域の境界を越えて」と題する講演会を中国大使館と共催した。講演会の後、中国大使館において日中医学交流センター20周年記念レセプションが開催され、韓志強臨時代表より祝辞をいただいた

2012

4月、北京老年病院と共催にて、「患者に合わせた投薬支援」の勉強会を開催
4月、与北京老年医院共同主办「符合患者的用药支援」演讲会



在北京老年医院演讲的日本服药支援研究会(原简易悬浊法研究会)倉田NAOMI代表
北京老年病院にて講演する日本服薬支援研究会(旧 簡易懸濁法研究会)の倉田なおみ代表



上：在北京演讲的辻井博彦先生
下：参观北京二十一世紀医院的大坪修会长与辻井博彦先生
上：北京にて講演する辻井博彦先生
下：北京二十一世紀病院を見学する大坪修会長と辻井博彦先生

TIPS②

近年来赴日研修的变化

2010年以来、除了原有的医师、护理人员相关培训之外、医院相关人员以外的访日团也增加了
2020年是线上交流的第一年、确立了新方式的交流。除了以往的来日和赴华交流、增加了线上交流的选项

ここ数年の訪日研修的变化

2010年以降は引き続き、医師や看護師の研修もあったが、病院関係者以外の訪日団が増えた
2020年はオンライン交流元年となり、今後の新しい日中間交流のスタイルを確立した。これにより従来の訪日訪中交流以外の選択肢が広がった



2014年11月、北京生前預囑協会一行赴日。与大坪修会长夫妇(右)的餐会合影
2014年11月、北京Living will協会一行が来日。会食する大坪修ご夫妻(右)



2015年、北京首都儿研所访日团来日、访问新宿牛込保健中心
从这个时期开始、专业领域的访日团逐渐增多
2015年、北京首都小兒科研究所訪日団が来日し、新宿の牛込保健センターを訪問。このころより専門領域に分かれた訪日団が増え始める



2015年12月湖南省红十字会访日团赴日、访问了日本赤十字社总部、第二年2016年8月也派访日团赴日、访问了日本赤十字社大阪分部
2015年12月に湖南省紅十字会が来日、日本赤十字社本社を訪問、翌年2016年8月に同会が来日し、日本赤十字大阪支部を訪問した

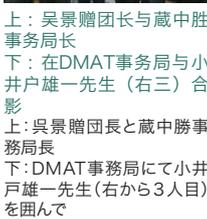
2015	2017	2018	2019	2020	近年
<p>2015年度の第2号より機関紙日中医学交流の編集部を北京中日友好病院から東京に移管する</p> <p>2015年度の第二期开始将会刊编辑部从北京的中日友好医院转到东京</p>	<p>当センター事務所を神楽坂Piazza大廈へ移転</p> <p>办公室迁址至神楽坂Piazza大廈</p>	<p>11月、中国国家外国专家局による2週間に及ぶ大型訪日研修団「広東省災害医療訪日研修団」を受け入れる</p> <p>11月、接收中国国家外专局项目—广东省卫生健康委的卫生应急医疗访日研修团</p>	<p>11月、昨年に続き、中国国家外国专家局より3週間の大型研修「北京病院管理センター訪日研修」を受け入れる</p> <p>11月、继上一年度再次接收中国国家外专局项目—北京医院管理中心的3周大型访日研修团</p> <p>6月、中国教育国際交流協会の依頼により初の領域別研修を7チーム受け入れる</p> <p>6月、开始受中国教育国際交流協会委托，初次接收各专业的主任级别的7个研修团</p> <p>3月、日中医学交流センターの公式WECAHTをオープン</p> <p>3月、本中心微信公众号「日中医学交流」公开</p>	<p>发生新冠病毒（COVID-19）疫情 COVID-19 發生</p> <p>2月、新型コロナウィルス感染症発生時、日本から中国へN95医療用マスクを寄贈。4月、中国から寄付頂いたマスクなど支援物資を日本の医療施設に寄贈</p> <p>2月、新型コロナウィルス感染症発生時、日本から中国へN95医療用マスクを寄贈。4月、中国から寄付頂いたマスクなどの支援物資を日本の医療施設に寄贈</p> <p>2月、新冠疫情影响（COVID-19）期间，先后从日本向中国国内捐赠N95口罩等防护物资。4月，将中国捐赠的防护物资分赠给日本的医疗机构</p> <p>6月、日中間のオンライン医学交流を開始</p> <p>6月、开始新的交流形式—中日线上医学交流</p>	<p>など研修団500団体以上、中国医療関係者研修受け入れ人数1万名にのぼる</p> <p>2020年度までに、当センター招聘で訪中した日本人専門家350名余り、中国からの病院管理者、医師、看護師信頼関係を築き、日中間の医学交流の懸け橋となった</p> <p>設立30年来、当センターは日本の官庁関連部署、医学団体、医学研究機構、大学病院、国立・私立病院と良好な等相關団体超过500团次，为中国医疗卫生领域培训人才近万人</p> <p>截至2020年，本中心共组织邀请日本专家350余人次访问中国，接待中国医院管理者、医师、护士建立了良好的信赖关系，搭建起中日两国医学交流的桥梁</p> <p>成立30年来，本中心与日本政府相关部门、医学团体、医学研究机构、大学附属医院、公立・私立医院等</p>



改版杂志封面。当年参访交流过的医院的介绍新しくなった表紙。その年にお世話になった病院を紹介



上：吳景贈團長与蔵中勝事務局長
下：在DMAT事務局与小井戸雄一先生（右三）合影



上：吳景贈團長与蔵中勝事務局長
下：DMAT事務局にて小井戸雄一先生（右から3人目）を囲んで



消化癌专业研修团来日时，在癌研有明医院听课场景
消化器癌研修团来日時のがん研有明病院にて講義を聞く



北京市医院管理中心研修团欢迎会上合影留念
北京市病院管理センター研修団歓迎会での記念写真



新冠疫情（COVID-19）期间，向駐日中国大使館捐贈N95口罩
新型コロナウィルス感染症発生時、中国大使館へN95医療用マスクを届ける



2017年、以在宅医疗或照护等考察为目的的研修团增多。另外，随着中国各地大型医院建设增多，来日参观考察日本医院建筑设计的团队也增多了
（左图：2017年5月常熟中医院访日团参观笑脸之家诊所时的照片
右图：2017年11月浙江大学医学院第二医院访日团拜访杏林大学医学部附属医院学习医院建筑设计）
2017年、在宅医療や介護の問題などをテーマとする研修団が増える。また、中国各地で大型病院の建設も相次ぎ、日本の病院デザインを学びに建築・設計チームも来日し研修を行った
（写真左：2017年5月に常熟中醫院が来日した際の写真のおうちクリニックでの在宅医療や遠隔治療について学ぶ様子
写真右：2017年11月に浙江大学医学部附属第2病院が来日し、杏林大学で病院デザインを学んだ）



2019年12月、协办第四届中日友好脊柱外科研究会
2019年12月、第4回中日友好脊柱外科研究会の開催をサポート



2020年6月、开始新的交流形式—中日线上医学交流
2020年6月、日中間のオンライン医学交流を開始

特別鼎談

中日医学医疗的可能性—对日中医学交流中心的期待

特別鼎談

日中医学医療の可能性—日中医学交流センターへの期待—



严 浩

(日中医学交流中心副会长、
EPS集团代表董事・会长)

巖 浩

(日中医学交流センター副会长、
EPSホールディングス代表取締役会長)

田口 淳一

(日中医学交流中心理事、
Tokyo Midtown Clinic 院长)

田口 淳一

(日中医学交流センター理事、
東京ミッドタウンクリニック 院长)

飯塚 阳子

(东京大学医学部附属医院
国际体检中心 主任)

飯塚 陽子

(東京大学医学部附属病院
国際検診センター長)

严：田口医生、饭塚医生，感谢今天百忙中抽空出席本次访谈。为了庆祝日中医学交流中心今年迎来创立30周年，企划了这次关于中日医学・医疗可能性的鼎谈，非常感谢两位的爽快允诺。作为访谈的一员，我今天同时也兼任主持人，还请多多包涵。接下来由我向两位自由提问，开始本次访谈。

首先，想请两位就自身经历，特别是其中与中国医疗相关的方面谈一谈。那请田口医生先开始吧。

田口：我1984年从东京大学医学部毕业，之后成为一名心内科的医生。我和日中医学交流中心的关系，是始于5年前成为中心理事的时候。我和严副会长，则是通过他博士时期同研究室的大江和彦医生（现：东京大学教授）相识的。我和大江医生是东京大学理科三类的同届同学，当时他跟我说严先生正在为某个临床试验找心内科的医师当顾问，便介绍了我，从那以后我们就开始来往了。回想起来，我们也是20多年的交情了。在那之后，我经历三井纪念医院、宫内厅（皇室事务）御医、东海大学等工作后，在六本木成立了东京中城诊所（Tokyo Midtown Clinic）。在医疗质量方面，为了领先普通私人诊

巖：田口先生、飯塚先生、今日はお越しいただいてありがとうございます。日中医学交流センターは今年創立30周年を迎えます。これを祝し、日中医学・医療の可能性について鼎談を企画したところ、両先生には快くお引き受けいただき深く感謝申し上げます。僭越ながら私が鼎談の一角かつ司会も務めさせていただきます。お二人にはアドリブで質問させていただきながら、話を進めさせていただきたいと思っています。

まず最初にお二方のご経歴、その中で特に中国の医療との関わりについてお話し頂きたいと思っています。まずは田口先生からお願いします。

田口：私は1984年に東京大学の医学部を卒業し、循環器内科の医師になりました。私と日中医学交流センターとの関りは、5年前から当センターの理事になっています。そもそも、巖さんの博士課程の大学院で同じ研究室だった大江先生（和彦、現東京大学教授）を通じてです。私と大江先生とは理Ⅲの同期で、彼から、巖さんがある臨床試験のアドバイザーとして循環器内科の医師を探しているということで紹介され、そこから付き合いが始まりました。もう20年以上前です。その後、私は三井記念病院、宫内庁で待医や東海大学で務めた後、六本木でミッドタウンクリニックを立ちあげました。医療の質

所、取得了美国约翰斯·霍普金斯大学 (Johns Hopkins University) 医学部的临床附属机构认证 (Clinical affiliation)、JCI认证等, 想要成为比较不一样的开业医生。

跟中国相关也有几段机缘。首先, 中城诊所在开展高端精密体检事业, 接收了许多中国过来体检的客户。在那之后, 为了了解客户·患者的后续情况我还去过合肥、成都等地。因为推广癌症的细胞免疫疗法也访问过几处医疗机构。此外, 通过亚洲医院管理·中国学会, 也在进行JCI的活动。

严: 刚才您讲到JCI, 能详细介绍一下吗?

田口: 全称是国际医疗卫生机构认证联合委员会 (Joint Commission International), 是医院的功能评价。它是一种世界标准的评价, 主要项目是患者安全。总部在美国, 通过一定的标准对医院进行功能评价。在日本, 包括我们中城诊所在内一共有大概30所医院通过了JCI认证。JCI通过逐一明确相关标准, 从而整理整个流程, 使其明确化, 以达到提高整体医疗服务质量的目的。

严: 通过这些活动, 您对中国的医疗服务的可能性和课题有什么感受呢?

田口: 最先进的医院的医疗系统发展得很快。通过人脸认证识别患者、利用5G技术进行远程问诊和相关管理。医疗器械的制造方面也提升了, 还可以从国外进口, 只是在管理方面存在问题。设施管理、各种流程的系统化、操作的规范化方面还做得不到位, 仅靠工作人员的共识操作机械, 因此工作人员不同操作水平也参差不齐。这不仅是中国的问题, 在日本也同样存在。

严: 看来医师和医疗工作者也会根据经验意会行动呢。

田口: 对, 心领神会的行动太多了。很多时候是没能持续发挥这些先进的医疗器械的效用。缺乏的是操作规范化·可视化, 并且经常更新·教育, 需要包含医师在内全体工作人员达成共识。与此相关的还有人事管理。员工评价、教育与沟通的质量, 这些都与患者安全密切相关。另外, 考虑到今后AI等技术投入使用, 也有可能发生急剧的变化。

严: 接下来, 有请饭塚医生谈谈。

饭塚: 我出生在中国, 是中日混血, 16岁来的日本。我是1994年从东京大学医学部毕业的, 所以应该是田口医生相隔10年的后辈。我的专业是糖尿病。2000年在中国演讲的时候感受到中日两国医疗的差异, 从那以后, 一直致力于把日本式糖尿病团队医疗带到中国 (医疗输出) 及在日本为中国糖尿病患者提供糖尿病治疗 (医疗输入) 的相关事业。

で普通の開業医を一步超えるため、ジョンズ・ホプキンズ大学医学部のClinical affiliationやJCIも取得するなど、少し面白いユニークな開業医を目指しています。中国との関わりはいくつかあります。まずミッドタウンクリニックは、ハイエンドドック事業も行っていて、中国からの人間ドック希望者を多数受け入れています。その後のアフターケアのため合肥や成都などにも行きました。がんの細胞免疫療法のプロモーションでいくつか医療施設を訪問させて頂いたこともあります。またホスピタルマネジメントアジア・チャイナ学会を通じてJCIの活動もしています。

嚴: いま話の中にあつたJCIを詳しく教えていただけますか。

田口: ジョイントコミッションインターナショナル (Joint Commission International)、つまり病院の機能評価です。世界基準の評価で、メインとなっている項目は患者安全です。アメリカに本部があり一定の規準で病院の機能評価をしています。日本では私どものミッドタウンクリニックもいれて30施設程度認定を受けています。JCIでは規準を一つずつクリアすることで、あらゆるプロセスが整理され明確になり、全体の質が上がっていくことを目的としています。

嚴: それらの活動を通して、中国の医療サービスの可能性と課題をどのように感じられていますか。

田口: 最先端の病院の医療システムは非常に進んでいます。患者さんを顔認証システムで識別し、5G技術を利用して遠隔から患者を治療、管理している。医療機器もとても良いものを作れるようになっていきますし、海外からの調達もできるのですが、問題はマネジメントです。施設管理や様々なプロセスがシステム化、マニュアル化されておらず、スタッフ同士の共通認識だけで動いているので人的なバラツキが多い。ただし、これは中国だけの問題ではなく、日本も同様です。

嚴: 暗黙知で医師も医療スタッフも動いている。

田口: そう、阿吽の呼吸で動いていることが多すぎます。素晴らしい医療機器などの能力をコンスタントに発揮できていない場合が多い。求められるのは、マニュアル化し可視化してかつ常にアップデートして教育し、医師も含めスタッフ全員の認識を揃えることです。また、これらに繋がるのが人事管理です。スタッフの評価、教育とコミュニケーションの質、それらが全て患者の安全に繋がっています。ただ、今後AIなどを使うことで急激に変わっていく可能性があると思います。

嚴: ありがとうございます。では、続いて飯塚先生お願いします。

飯塚: 私は中国生まれの日中のハーフで、16歳で来日しました。東京大学の医学部を1994年に卒業したので、田口先生の10年後輩ですね。専門は糖尿病です。2000年に中国で講演をした際に日中医療の違いに触れ、それ以来ずっと日本式糖尿病チーム医療の中国とのアウトバウンド・インバウンドでの活動を続けています。

严：关于糖尿病团队医疗，可以详细说一下吗？

饭塚：不仅是医师，还包括护士、药剂师、营养师等成员从各自的专业立场出发，赋能授权，激发每位糖尿病患者的治疗积极性，与患者一起，通过团队介入来实现更好的糖尿病治疗。具体而言，也就是说很多时候不仅仅依靠药物，而是配合饮食疗法和运动去改善生活习惯，从而达到从根本上改善的目的。

严：医疗输出是指日本的糖尿病治疗团队到中国去，提供治疗吗？

饭塚：2000年的时候日本经济产业省成立了Medical Excellence JAPAN (MEJ) 这个机构，我推行的日本式糖尿病团队医疗在中国的有效性验证事业成为其重点扶植项目。根据在上海、杭州、北京的实施情况，得出的结论是，连续接受治疗、或者就诊次数越多的患者，其改善效果越显著。

严：那成员方面情况怎么样呢？

饭塚：从团队成员的选拔和组成，制作提交中方的方案、交涉、实施、到最后的报告书等都是我们完成的。现在，在日本内阁官房的支援下，在中国各地为设立日本式糖尿病专科医院做准备。

严：另一方面，日本式糖尿病团队医疗的医疗输入情况怎么样呢？

饭塚：从2010年开始，作为国家的新成长战略，在促进医疗输入的支援下，我们也开始接收希望在日本接受糖尿病团队医疗的国外患者。东大医院也成立了国际诊疗部，为来自世界各地的患者提供诊疗。

严：在接收中国患者的糖尿病团队医疗方面，反响怎么样呢？比如我朋友中就有“既不想控制饮酒也不想运动，有没有好的药呢”这种类型的。

饭塚：(笑) 我实施下来的感受是，越是才智具备的患者，越有希望改善生活习惯，从根本上去治疗的倾向。特别是企业高管等已经注意到，自身的体型、健康状况与企业形象和稳定性的评估相关。所以非常的努力。

严：也有人去祠庙进行饮食疗法的吧？

饭塚：素食是吧(笑)。也就是说，对于自身能够做到何种程度的律己很关键，我感觉越是有社会地位的人士，越能自律，只要提供疾病的相关知识，在治疗效果等方面就会收到更好的协同效应。

严：刚才说到您现在就任东大医院国际体检中心的负责人是吧？那么目标群体是哪些人呢？

严：糖尿病チーム医療を少し説明いただけますか。

飯塚：医師だけでなく、看護師、薬剤師、栄養士らがそれぞれ専門的な立場からエンパワーメント的なアプローチで一人ひとりの糖尿病患者さんの治療モチベーションを引き出し、患者さんと歩走しながら、チームでよりよい糖尿病治療を実現していく医療です。具体的には、多くの場合投薬だけではなく、生活習慣を改善するため食事療法や運動療法からもアプローチし、根本からの改善を目指します。

严：アウトバウンドとは日本から糖尿病治療チームが現地に行って治療を提供したのですか。

飯塚：2000年に経済産業省がメディカルエクセレンスジャパン (MEJ) を立ち上げ、中国での日本式糖尿病チーム医療の有効性を検証する事業も採択されました。上海、杭州、北京で実施してまいりましたが、受診が連続し、また回数が多い人ほど、顕著な改善効果が見られるという結果を得ました。

严：メンバーはどのように選ばれたのでしょうか。

飯塚：チームメンバーの選定や構成などをはじめ、中国の施設への提案書作成、交渉、実施、最後の報告書作成などすべて私たちがやりました。現在、内閣官房のサポートの下、中国各地で日本式糖尿病チーム医療が受けられる専門病院の設立準備を進めています。

严：逆に日本式糖尿病チーム医療におけるインバウンドの状況はいかがでしょう。

飯塚：2010年からは国の新成長戦略として医療インバウンド推進支援もあり、日本で糖尿病チーム医療を受けたいというインバウンド患者を受け入れる動きが始まりました。東大病院でも、国際診療部を立ち上げて世界の患者さんを診察しています。

严：中国の患者さんの糖尿病チーム医療受け入れに対する反応はどうですか。私の友人など「節酒も運動もしたくないのですが、良い薬はありませんか」ってなりますが。

飯塚：(笑) インテリジェンスの高い患者さんほど、生活習慣を改善し根本的に治療したいと望まれる傾向があると感じています。特に、企業のトップの方などは、自らの体形や健康状態がその企業のイメージや安定性の評価につながっていることに気が付いています。だから努力もされます。

严：お寺で食事療法なんて人もいますね。

飯塚：精進料理ですね(笑)。つまり、自分をいかに律することができるかがポイントであり、社会的地位のある方ほど、病気の情報を提供して差し上げれば、治療効果も含めてたくさんの相乗効果があると感じています。

严：先生は東大病院国際検診センター長に就任されましたね。どのような方をターゲットとされていますか。

飯塚：是的。在医疗的全球化发展中，为了将高度发达的日本预防医疗服务提供给有需要的国外人士，东大医院在去年4月设立了国际体检中心。从以往医疗签证的发行数量来看，感觉从中国来的人士将会占8、9成吧。在体检服务方面，基于科学循证依据，制定了以癌症的早期筛查和生活习惯病的预防·改善为中心的，为期2天的全身综合体检套餐。体检如果发现异常，则经由国际诊疗部介绍到相应的诊疗科。体检和治疗的无缝对接可以说是一大强项。

严：话说，饭塚医生您16岁就来日本了，是高中的时候吗？

飯塚：不是，我因为跳级的关系，来日本的时候已经高中毕业了。

严：您是来日本之后开始学习语言的吗？

飯塚：是的，我原以为只要在日本有环境自然就能掌握语言，但事与愿违（笑）。努力学习，一年后就通过了日语能力考一级，但因为17岁年龄不够没能参加大学的入学考试，一直等到18岁才考入了东京大学。

严：您是考入了东京大学的理科三类对吧。

飯塚：实际上那时候还不知道理科三类有多么难。因为想从事人类基因相关的学习和工作，在书店和图书馆读到的关于基因等医学类书籍的作者大多毕业于东京大学，因此只是单纯的认为东京大学医学部应该比较好吧。

严：原来如此。那接下来讲讲我的经历，还有医学·医疗的相关内容吧。我出身于江苏省张家港，距离饭塚医生的黑龙江省牡丹江市大约2500公里。1979年的时候，跟饭塚医生一样16岁高中毕业，然后进入天津大学学习。但我不是跳级。我的中学时代由于文化大革命，停止了高考，优先普及培养实务及实践型人材的教育。所以当时的农村是5·2·2的教育体制。

飯塚：时间上少了3年啊。

严：是的，正好在升入高中的时候，文革结束开始恢复高考了。整个高中都紧张起来，重新开始学习初中的课程。老师们也有恢复教学后的喜悦，大家处在一种集体的躁动状态下。最终进入天津大学半导体物理系。如果就这样继续在中国发展的话，可能就走上与医学毫无关系的人生道路了。虽说此后我与医学医疗的关联是偶然的，但其实我母亲曾是当时3万人左右的人民公社唯一的医院里的医生。

飯塚：来日本留学是从事医学的契机吗？当时的公派留学生大概有多少人呢？

严：英国、法国、德国、日本各有100人。去哪个国家由

飯塚：はい。医療のグローバル化が進む中、高度に発展してきた日本の予防医療サービスを必要としている海外の方にも提供できるよう、昨年4月、東大病院は国際検診センターを設立しました。医療ビザの発行件数から考えると、対象者は中国の方が8、9割じゃないかと思っています。科学的根拠に基づき、「がんの早期発見」と「生活習慣病の予防・是正」を中心に総合的な検診サービスを目指した2日間の全身検診プランをご用意しています。そこで異常が発見されれば、国際診療部を介してそれぞれの診療科に紹介します。検診と治療がシームレスなことが強みの一つです。

嚴：ところで、飯塚先生は16歳で来日されたとのことなのですが、高校生の時ですね。

飯塚：いえ、来日した時は飛び級で高校は卒業していました。

嚴：日本に来てから言葉を勉強されたのですか。

飯塚：そうです。日本にいれば自然に身につくものだと考えていました（笑）。猛勉強して翌年には日本語能力1級試験に合格したのですが、17歳では大学受験させてもらえなく、18歳になるまで待って東京大学に入りました。

嚴：東京大学の理科Ⅲ類に入学されたのですね。

飯塚：実は理Ⅲがそれほど難しいとは知らなかったのです。ヒトの遺伝子に関わる勉強や仕事をしたと考えていて、本屋や図書館で読んだ遺伝子や医学書の著者の多くが卒業している東京大学の医学部が良いのだと単純に思っただけです。

嚴：では私の経歴と医学・医療との関わりを話します。出身は江蘇省張家港で、飯塚先生の黒竜江省牡丹江とはおおよそ2500キロ離れています。私は1979年、飯塚先生と同じく16歳で高校を卒業し天津大学に入学しました。でも飛び級じゃないですよ。私の中学生時代は文化大革命で、国は大学入試もストップさせ、まず実務的かつ実践的な人材を育てるため教育の普及を優先させていました。だから当時の田舎では5·2·2制だったのです。

飯塚：3年間少なくなっただけのことですね。

嚴：そうです。ただ高校に入学した頃、文革の終了とともに大学入試が復活しました。高校全体が色めき立って中学の勉強からやり直し。先生たちも教えられる喜びもあって、みんな一種の集団躁状態でした。結局、天津大学の半導体物理に入学しました。そのまま中国にいたら医学とは全く関係のない人生だったかもしれません。その後の医療や医学との関りは全くの偶然と言って良いのですが、ただ、母親が3万人程度が所属する人民公社（当時）の中に一つだけあった病院の医者でした。

飯塚：日本留学が医学との関りのきっかけですね。国費留学生は何人ぐらいですか。

嚴：イギリス、フランス、ドイツ、日本に100人ずつで、

教育部决定。日本派遣的教师团队不仅教授日语，还有数学、理科、还使用日本教材《New Horizon》教授英语。

飯塚：被派遣去哪个国家是随机的吗？

严：感觉不是，大概是根据专业来选派的吧。去日本的是电子、纤维、化学专业的学生较多，我的专业是半导体物理，大概是觉得与计算机专业相近而被选中的吧。赴日前问“山梨是个什么样的地方？”，工作人员前言不搭后语地说“有富士山的风光明媚的地方”。完全不得要领（笑）。

飯塚：最初是在山梨大学学习计算机吗？

严：是的。后来才知道山梨大学的计算机学科是国立大学中最早设立此专业的三所大学之一。从北海道到九州，可以说吸引了很多独特的计算机迷。人工智能领域有名的大阪大学的石黑教授也曾在这个学科。

在本科的时候偶然的的机会，有位老师邀请我进入品质管理·统计研究室。于是继续学到了硕士，然后发现教科书的作者介绍基本都是东京大学出身的。所以就想，要继续教育的话还是得去东京大学。在这点上与饭塚医生想的一样。所以博士课程我决定去当时在山梨大学担任非常勤讲师的东京大学的大桥靖雄老师（东京大学名誉教授）那里。后来大桥老师从工学部调任到医学部，开设了医学统计研究室。这便是我与医学的最初邂逅。

我在一边读博士课程的时候，在大桥教授的介绍下，负责了国立癌研究中心及化学疗法学会的几个项目。仔细想来，当时医学统计在医学领域和统计学领域都属于分支，反而是件好事。有种天掉馅饼的感觉，工作越来越多，也越来越忙，最终在1991年的时候成立了公司。当时创业的心态，说实话相当轻松。因为我的身份是公务员、不久就要回国的。当时想着，实在不行就把公司关掉回国。没想到不知不觉事业越做越大，跑也跑不掉了。

也是偶然的的机会，时任大使馆教育参赞，也是多年来一直担任日中医学交流中心副会长的巴德年先生，在他的帮助通融下解决了。现在我的公司在中国进行药物研发，也建了工厂。今后在事业上也将向整个大健康领域进军。

如果说可以用统计学的显著性检验来证明偶然中存在必然的话，那么由偶然不断叠加的我的这段故事就是有统计学意义的。因此在我看来，还是有其必然性的。

接收中国人患者（医疗输入）的现状与课题

严：田口医生的诊所、饭塚医生的国际体检中心都接待很多中国患者吧。仅仅从商业化的思维、人口来考虑的话，一水相隔的中国可以说有着日本10倍以上的市场。从医生的立场出发的话，怎么看待这种可能性呢？还有，

どの国に行くかは文部省に決められていました。日本から派遣されてきた教師団に日本語だけではなく数学や理科、“New Horizon”っていう日本の教科書を使って英語も教わりました。

飯塚：派遣先の国はランダムですか。

嚴：いえ多分、専門で選んでいたのだと思います。日本へは、電子工学、繊維や化学を専攻している学生が多く、私も専攻の半導体物理が計算機に近いだろうとかそんな感じだったんだらうと思います。来日する直前に留学先が山梨大学と告げられました。「山梨ってどんなところですか」って聞くと役人はしどろもどろで「富士山のある風光明媚なところだ」ってね。さっぱり要領を得ない。

飯塚：最初は山梨大学でコンピュータの勉強ですか。

嚴：そうです。後で知ったのですが、山梨大学の計算機科学科は、国立大学に作られた最初の3つの大学の一つです。北海道から九州まで、言わばユニークなコンピュータオタクを引き付けていたのです。アンドロイドで有名な大阪大学の石黒教授も同じ学科です。学部生のとき偶然、ある先生から誘われて品質管理・統計の研究室に入りました。そこで修士まで勉強をしたのですが、教科書の著者紹介には東京大学出身の先生が並ぶのですね。だからこの先勉強を続けるなら東京大学に行かないとダメなのではないかと。飯塚先生と同じです。だから博士課程は、非常勤講師として山梨大学に来られていた東京大学の大橋先生（靖雄、東京大学名誉教授）の下に行こうと決めました。すると大橋先生が工学部から医学部に移られ、医学統計の研究室を開くことになったのです。これが私と医学の最初の出会いです。私は大学院生でありながら、大橋先生の紹介でがんセンターや化学療法学会などからプロジェクトをいくつも任せられるようになりました。考えてみますと、医学統計分野が医学でも統計でも傍流だったのがよかったのですね。まさに柵からほた餅、仕事だけはたくさんあり、どんどん忙しくなって会社を作ったのが1991年です。本当に軽い気持ちでした。というのは、私の身分は公務員でしたので、いずれ中国に帰らなければならぬ。いざとなったら会社を畳んで帰ろうってぐらいの気持ちで始めたのですが、そうしているうちに、いよいよ逃げられなくなってしまった。これも偶然なのですが当時の大使館教育参事官が、永年この日中医学交流センターの副会長をされている巴先生（巴德年、現交流センター副会長）で、相談するといろいろ手を講じて融通を効かせてくれたのです。いまでは私の会社は中国で創業も行っており、工場も作りました。今後は事業をヘルスケア全体に広げていこうとしています。

偶然の中にある必然を証明するのが有意差検定だとすると、偶然に偶然が重なった私のストーリーには有意差がある。だから、やはり必然だったのだと思っています。

中国人患者さんの受け入れ（インバウンド）の現状と課題

嚴：田口先生のクリニックにも、飯塚先生の国際検診センターにも中国からの患者さんが多数来られていますね。あくまでも、ビジネス的な発想ですが、人口から考

日本の医療界会歓迎吗？

田口：作为医师、作为诊所经营者感觉可能性还是比较大的。但是考虑日本医疗界的思想心态时、日本的保险制度便成了诊疗・治疗的壁垒。我认为，在“无论哪个机构、不管哪个医师，同样治疗费用相同”这种常识下，即使接受治疗的对象是外国人（自费诊疗），对于自费诊疗持有抵抗意识的医师还是挺多的吧。放眼世界，基本上都是自费诊疗，为好的医疗服务支付相应的费用按理来说理所当然，但是在医师、行政和一般大众中，有很多人认为这是不好的，对此产生抵触。

严：那么东京大学对于外国人的自费诊疗和体检的价格是如何设定的呢？

飯塚：诊疗报酬点数，一点是30日元。也就是说日本人的3倍、体检也同样是3倍。考虑到接收的准备工作、由于翻译介入而额外花费的时间、文化、宗教方面的关怀等要顾及的方方面面，这个收费还是比较合理的。即便这样，感觉国外人士还是认为费用便宜。与其他国家相比，日本的医疗费原本就比较便宜。特别是做某种手术，我听说乘坐头等舱来日本治疗还绰绰有余。对于希望接受诊疗的人士而言，价格并不贵。

田口：医生按照以往与日本人患者那样相同接待方式是行不通的。虽说是理所当然的，充分的做好接待的准备、疾病、治疗方法及各种选择的说明都需要花费更多的时间。必须从“诊疗外国人是怎么一回事”开始，自觉意识到这种差异，从而理解收取这部分报酬也是理所应当的。

严：确实是有认为自费诊疗不好的风气。有一些蹊跷的印象？

飯塚：其中也有一些可疑的治疗。所以会有“并非正道”的印象。

田口：无法理解甚至连混合诊疗都不认同的想法。使用保险诊疗为基础，超出的部分自费（自由诊疗），当然因为“自由”，选择也就因人而异。但是可能从违反平等主义的角度吧，反对的人也比较多。

严：不论是好是坏，看来日本医疗界还是留有质朴的精神论的。

有可能成为突破口的双赢探讨

严：今后，随着少子高龄化进一步发展，日本必将迎来保险财源的紧缩。另一方面，日本拥有世界第一流的医疗资源。给国外患者提供医疗服务，说是利于国家利益可能有点夸大其词，从旁观者角度来看我认为是双赢的，但似乎进展并不大。不知两位医生怎么看待这个问题，

えると中国には日本の10倍以上のマーケットが海の向こうにあることになる。医師の立場からその可能性はいかがでしょうか。また、日本の医療界はそれを歓迎できるのでしょうか。

田口：医師としても、クリニックの経営者としても可能性は大いに感じています。ただ、日本の医療界のメンタリティを考えた時、診療・治療の障壁になるのは日本の保険制度です。どの施設、医師であっても同じ治療は同じ金額が常識の中、たとえそれが外国人への治療であっても、自由診療で治療することに対して抵抗感を持つ医師が多いのではないかと思います。世界を見渡せば、基本が自由診療で、良いサービスにはそれ相応の値がつくのがあたりまえですが、それを悪いことのように捉え、抵抗感を持つ医師や行政、一般の人の中にも多い。

嚴：東京大学では外国人への自由診療や検診の値段設定はどうなっているのでしょうか。

飯塚：診療報酬点数を1点につき30円としています。つまり日本人の3倍で、検診も同様に3倍です。受け入れ準備や事務作業、通訳を介することで時間もかかりますし、文化的・宗教的配慮、様々な手間を考えると妥当でしょう。それでもみなさんは安いと感じられています。日本は医療費がそもそも安いのですね。特にある種の手術などは、ファーストクラスで訪日してもお釣りがくると聞いたことがあります。望まれる方にとっては、それほど高くはないのです。

田口：医師もいままでの日本人患者と同じ接し方ではだめです。当たり前のことですが、受け入れをしっかりとセッティングし、病気、治療方法や様々な選択肢の説明に時間をもっともっとかける必要があります。外国人を診療するということはどういうことなのか、からスタートしなければならない、そしてその分だけ報酬をしっかり頂くことが当然なのだということを自覚しなければならない。

嚴：確かに自由診療はよくないという風潮がありますね。何か怪しいというイメージでしょうか。

飯塚：怪しい治療も中には。だから王道ではないというイメージがあります。

田口：混合診療すらだめといった発想が理解できません。ベーシックを保険診療で賄って、超える部分を自由診療とすれば、当然「自由」ですから、そこには選択による個人差があっても然るべきです。しかし平等主義に反するという発想からか反対も多い。

嚴：良くも悪くも日本の医療界にはナイーブな精神論はまだ残っていますね。

突破口となりうるWin-Winの発想

嚴：今後、少子高齢化がさらに進むと日本の保険財源も逼迫必須です。いっばうで世界に冠たる医療リソースは持っています。海外の患者への医療サービス提供は、国益といえど大袈裟ですが、傍目から見てもWin-Winだと

有什么突破口吗？

田口：我认为很多医师还没想到这个层面。在我看来，日本有很多长期疗养型病床，相对而言并不需要配备很多医护人员。在这方面，如果可以多接收来自东南亚诸国的医生、护士、介护士等，同时也对国外患者开放的话，或许可以成为非常不错的国际性医疗服务的资源。如果能开设一家这样的具有国际性的、接收长期住院患者的医院或设施，或许会是一个转折点。

严：您是说试点医院吧。

田口：我认为会很有意思。实际上，在新冠疫情蔓延中，对在日外国人患者的医疗服务质量也有所下降。即便是被称为国际医院的设施，实际上也只对应英语，并非多语种都能对应。我认为设立可以对应中文、韩语、葡萄牙语、越南语等多语种的医院，有可能成为突破口。

严：的确如此，饭塚医生您怎么看呢？

饭塚：对于今后的保险诊疗和医院经营，我感到强烈的危机感。东大医院设立国际体检中心的目的，表面上是“向国外人士提供日本预防医疗的经验”，实际上也有着“只坚持向日本人患者提供保险医疗，今后将很难有发展”这一判断在里面的。现在尚且是勉强维持经营的状态，今后会越来越艰难。但是，如果我们能接收国外的患者和体检人士的话，患者与医院、自费诊疗与保险诊疗、诊疗与体检等可以全方位建立共赢的关系。换句话说，我认为，若不建立医院不问国籍，国内外患者之间也形成互相帮助、相辅相成的关系，则今后的医院将很难立足下去。

严：我感觉一直以来，在日本的医疗行业谈钱被视为禁忌。这大概也从侧面说明了保险财源一直很丰厚吧。但是黄色预警已经拉起，开始意识到不考虑商业要素就没有持续可能性了。仅从中日两国来看，中国对日本医疗服务的需求确实存在。将日本的医疗资源提供给国外患者，构建共赢关系是有可能的。当然，确实也有需要解决的几个课题。其中，我认为运用诊疗、体检的管理能力这一课题尤为重要。饭塚医生，不知您对尝试设立真正意义上的试点国际医院是否感兴趣呢？

饭塚：当然。尤其是筹建，更能提起我的兴趣。非常愿意贡献我的力量，如果需要的话（笑）。通过做经济产业省的项目，我发现自己在召集成员、组建成员方面还是挺擅长的。如果我能帮上忙的话，愿意效劳。

严：可能我长年在日本工作的关系吧，思考方式似乎也日化了，一提到建医院就感觉门槛很高，冷静思考的话，可能并非那么难。事实上，在中国，建医院甚至看起来相当容易（笑）。即便在日本，如果解决资金问题还有构想计划的话，或许有可能突破医疗界特有的规定吗？

感じているのですが、あまり進んでないように思えます。医師であるお二人の目にはどう映っているのでしょうか。何か突破口はありますか。

田口：多くの医師の発想はそこまで至っていないのだと思います。アイデアとしては、日本の病床は長期滞在型で医療スタッフに人手をかけていないところも多いのですが、そこに東南アジア諸国から医師や看護師や介護士などをたくさん受け入れ、海外の患者にも開放すれば非常によい国際的な医療サービスのリソースになるかもしれません。このような国際的な長期患者が受け入れられる病院・施設を一つ作れば転換点になるのではと思っています。

嚴：モデル病院ですね。

田口：面白いと思っています。実際、COVID-19がこのように急拡大している中では、日本にいる外国人への医療サービスも落ちています。国際病院という名前がついていても実際使用している言葉は英語だけで、多言語対応はできていない。中国語、韓国語、ポルトガル語もベトナム語も対応が可能な病院を作るのは突破口になりうると思います。

嚴：なるほど、飯塚先生はどう感じられていますか。

飯塚：今後の保険診療と病院経営への危機感をとても強く感じています。東大病院の国際検診センターの設立目的は、表向き「日本の予防医療の経験を海外の方にも提供する」ということなのですが、実際のところ、日本人向けの保険診療を続けているだけでは、今後の成長は難しいとの判断があります。今でさえギリギリの経営状態なのだから今後はますます厳しい。しかし、海外の患者や検診希望者を受け入れることができれば、患者と病院も、自由診療と保険診療も、診療と検診も全ての方向でWin-Winの関係が作れます。逆に言えば、病院側も国籍を問わず利用者側もお互い助け合い、補い合うような存在にならないと、今後の病院は成り立っていかなくなると思っています。

嚴：今まで日本の医療業界ではお金がタブー視されていたように思います。それは保険财源がしっかりしていたことの裏返しでしょう。しかし、そこに黄色信号が点灯しつつあって、ビジネスの要素を入れなければ、持続可能性がないことに気が付き始めた。日中だけ見ても、海外からの日本への医療サービスに対するニーズは確実にあります。日本の医療リソースを海外の方にも提供することでWin-Winの関係を作れることは可能でしょう。課題は確かにいくつかありますね。なかでも、診察、検診を運用するマネジメント能力の課題は大きいと感じています。飯塚先生、モデルとなるような本当の意味での国際病院を作る試みには興味がありますか。

飯塚：もちろん。特に立ち上げには興味が湧きます。ぜひ貢献したいと思います、私であれば（笑）。経産省のプロジェクトでわかったのは、私は人を集めること、それらの人をオーガナイズすることが得意ということですよ。是非協力させていただければと思います。

田口：因为日本对医院的规定非常严格，地点可能要设在神户等医疗特区吧。而且，关于运营的详细规定、雇佣外国人等课题也必须解决。成功的关键在于能雇佣多少外国人医师和医技人员。如果能搞清楚这点，就能一鼓作气推进下去。此外，还有商业保险的问题。内容上，能否有包含国外诊疗在内的商业保险，也是一个关键问题。

严：这种尝试必然要涉及到政治与媒体的协调。目前这个时期，似乎对中国不太信赖的氛围比较浓厚。

饭塚：但是健康是人类共通的课题。所以，如果中日两国能够共同运营，相信在社会上也会有很大反响的。

严：确实有这个大义名分。这面旗帜应该一直高举。

只有日中医学交流中心才能做到的事

严：日中医学交流中心是由朴顺子医生（故人）等人建立起来的，已经30周年了。她与饭塚医生一样，都是医生且出生在中国，都有想为中国的医疗事业发展作贡献的情感。经过30年的发展，中日两国的关系也与中心成立当时有所不同。

饭塚：当时是中日关系很好的时代吧。之后国家之间的力量平衡发生了重大改变，关系也有波动起伏。

严：特别是经济方面的力量关系完全改变了。中心成立当时，目的是进行人员交流、信息交流，以及药品和医疗器械等物质方面的交流。这30年以来，说它年轻也好，有历史也罢，我们实现了中日两国间1万人以上的医师往来交流。同时，与当初单方面的物的交流相比，也发生了很大的改变。正因为如此，我希望在这个具有里程碑意义的时间节点上，能更多地让日中医学交流中心发挥作用。尤其是今天听了饭塚医生和田口医生的发言，我想，像我们讨论的各种可能性与课题，有必要积极向政府、学会、医师会等去传达。这也正是像我们这样的NPO组织才能做到的事情。非常感谢今天田口医生、饭塚医生在百忙之中接受访谈。

* 仅合影时摘除口罩。

* 鼎谈时戴口罩、保持2米以上距离进行。

* 大桥靖雄先生于2021年3月11日不幸逝世。在此表示沉痛哀悼。

嚴：私が永年日本で仕事をしているせいか、思考も日本人化しているようで、病院を作ることにハードルを感じる面もあるのですが、冷静に考えれば病院を作ることはそう難しくないのかもしれませんが。実際に中国では簡単のようにさえ見えます。日本であっても、資金含めしっかりとした構想があれば医療界独特の規制も突破できるのではないのでしょうか。

田口：日本の病院への規制はかなり厳しいので、場所は神戸などの医療特区になるのでしょうか。さらに、運用についての細やかな規制、外国人雇用の課題もクリアしなくてはならない。成功の鍵は外国人の医師やコメディカルをどの程度雇うことができるのか。ここが見極められたら一気に進められると思います。また、民間保険の問題があります。外国の診療までカバーできる保険が作れるかどうかの一つの鍵でしょう。

嚴：このような試みには、必ず政治やメディアとの調整が出てきます。今はどうかすると、中国は信用ならないという雰囲気が強い時期です。

飯塚：しかし、健康は人類共通の課題です。だから日中で共同運用ができれば、社会的にも大きなセールスポイントにもなるのではないのでしょうか。

嚴：その大義名分はあります。この錦の御旗は常に掲げるべきです。

日中医学交流センターだからできること

嚴：さてこの日中医学交流センターは朴順子先生（故人）らが立ち上げて30周年が立ちました。彼女は飯塚先生と同様、中国生まれの医師であり、中国の医療発展に貢献したい。そのような思いがあって30年前に日中医学交流センターを立ち上げたと聞いています。設立当初の日中関係は現在と異なっていました。

飯塚：当時の日中関係は良い時代でしたね。その後は国同士のパワーバランスも大きく変化し、その関係にも波があります。

嚴：特に経済の力関係が全く変わってしまいました。センターが掲げた目的は、人的交流、情報交流そして医薬品や医療機器のモノの交流でした。この30年間をわずかというのか、歴史があるというのかはともかく、私たちは1万人以上の医師の日中間の往来を実現してきました。また、当初は一方通行だったモノの交流についても大きく変わりました。だからこそ、私はこの節目に日中医学交流センターをさらに活かしていきたいと思っています。特に今日、飯塚先生、田口先生から話を伺っていて、議論したような様々な可能性と課題を政府や学会、医師会などに積極的に発信していく必要があると思います。私たちのようなNPO法人だからこそできることでもあるのです。田口先生、飯塚先生、今日は本当にありがとうございました。

* 記念写真の時のみマスクを外しています。

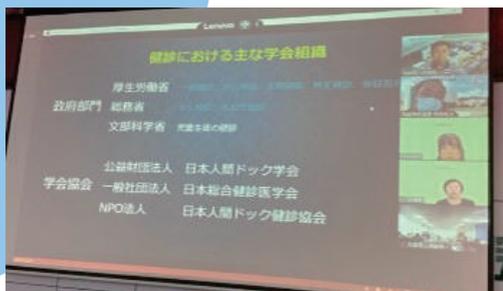
* 鼎談はマスクを着用し2メートル以上の距離を取って行われました。

* 大桥靖雄先生は2021年3月11日に逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

1 6月、北海市人民医院与日本龟田综合医院连线，就日本的精密体检的历史、制度、运营和服务等进行了中日云端交流

6月、北海市人民病院と亀田総合病院において、日本の健康診断の歴史や制度、サービス、健康診断センターの運営等についてオンライン交流を行いました



当日交流的情景
当日の交流の様子



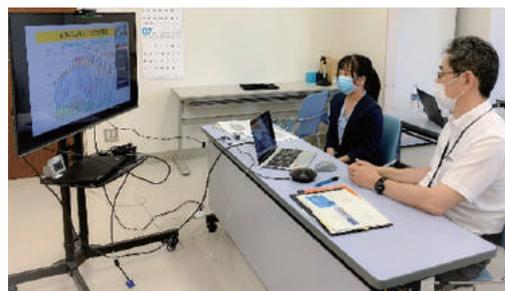
北海市人民医院会场
北海市人民病院会場の様子

2 7月、广西壮族自治区江滨医院与龟田综合医院连线，就日本康复医疗的现状、技术、服务等进行了中日云端交流

7月、広西チワン族自治区江濱病院と亀田総合病院において、日本のリハビリ現状、技術やサービス等についてオンライン交流を行いました



广西壮族自治区江滨医院会场
広西チワン族自治区江病院会場の様子



田综合医院村永信吾先生(右) 演讲
亀田総合病院の村永信吾先生(右) が講演

3 8月、南京医科大学第二附属医院与日本杏林大学医学部附属医院连线，就药剂科的业务、管理、安全等进行了云端交流

8月、南京医科大学第二附属病院と杏林大学医学部附属病院において、薬剤部の交流を行いました



杏林大学医学部附属医院的交流现场
杏林大学医学部附属病院会場の様子



南京医科大学第二附属医院的交流现场
南京医科大学第二附属病院会場の様子

4 8月、广西医科大学第一附属医院与日本顺天堂大学医学部附属顺天堂医院连线，就胃肠外科进行了交流

8月、広西医科大学第一附属病院と順天堂大学医学部附属順天堂医院において、胃腸外科の交流を行いました



上：胃肠外科线上交流的情景

上：胃腸外科オンライン交流会の様子

右：4 顺天堂医院福永哲先生的演讲

右：順天堂医院の福永哲先生講演



5 9月、常州市第一人民医院与日本帝京大学医学部附属医院连线，就内分泌和肾脏内科进行了云端交流

9月、常州市第一人民病院と帝京大学医学部附属病院において、内分泌と腎臓内科のオンライン交流を行いました



帝京大学医学部附属医院的连线现场
帝京大学医学部附属病院会場の様子



常州市第一人民医院的连线现场
常州市第一人民病院会場の様子

概要：2020年度、受新冠疫情影响扩大影响，中日两国间互访交流被迫中止。在此情况下，本中心企划并实施了9次线上形式的中日医学云端交流会

概要：2020年度、新型コロナウイルス感染症拡大による訪日団の交流中止を受け、新たにオンライン交流を企画。オンライン交流会を9回実施

6 10月、广西医科大学附属肿瘤医院与日本国立癌研究中心东医院连线，就大肠外科相关手术进行了交流

10月、广西医科大学附属肿瘤医院与国立がん研究センター東病院において、大腸外科の交流を行いました



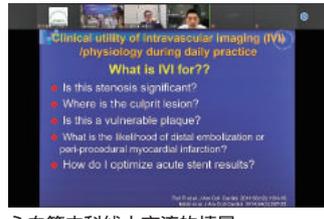
国癌东医院的大津敦院长致辞
国立がん研究センター東病院の大津敦院長による挨拶



国癌东医院的伊藤雅昭先生作演讲
国立がん研究センター東病院の伊藤雅昭先生による講演

7 10月、广西医科大学第一附属医院与日本顺天堂大学医学部附属顺天堂医院连线，就心血管内科进行了交流

10月、广西医科大学第一附属医院与顺天堂大学医学部附属顺天堂医院において、循環器内科の交流を行いました



心血管内科线上交流的情景
循環器内科オンライン交流会の様子



广西医科大学第一附属医院会场
广西医科大学第一附属医院会場の様子

8 11月、四川省遂宁市中心医院与日本健育会集团旗下石川岛纪念医院连线，就康复科进行了云端交流

11月、四川省遂宁市中心医院と石川島記念病院において、リハビリに関する交流を行いました



遂宁市中心医院会场
遂宁市中心医院会場の様子



石川島記念病院会场
石川島記念病院会場の様子

9 11月、安徽省医学会肿瘤学分会第25届学术年会在合肥市顺利召开，日本国立癌研究中心东医院2位专家通过线上方式参会并作主题演讲

11月、安徽省医学会腫瘍学分会第25回学術年會にて、国立がん研究センター東病院より2名の先生が講演しました



国癌东医院大肠外科伊藤雅昭科长作演讲
国立がん研究センター東病院大腸外科の伊藤雅昭先生による講演



国癌东医院胃外科木下敬弘科长作演讲
国立がん研究センター東病院胃外科の木下敬弘先生による講演

NEWS

COVID-19支援

新型コロナウイルス疫情在全球爆发。在中国医疗物资紧缺的时候，中心在日本募集医用口罩向中国支援。后来日本疫情严重医疗物资紧缺时，又接收中国友好机构捐赠的口罩向日本支援

COVID-19対応

世界中で猛威を振った新型コロナウイルス感染症。中国が深刻な状況の時、センターが寄付を募り、日本から医療用マスクを寄贈。また、日本でマスク不足が報じられると中国関係者より多くのマスクが当センターに届きました



2月、中心向中国大使馆交付医用N95口罩
2月、医療用マスクN95を中国大使館へお届けする



5月、许多口罩从中国运抵中心，由中心负责运往日本的医疗、护理现场

5月、中国から多くのマスクが届き、センターの責任の下、日本の医療現場、介護現場へお届けさせていただきました

中心办公室搬家 事務所移転



10月、办公室搬家。重新搬回2017年8月之前所在的AK办公楼

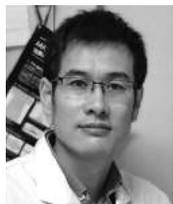
10月、事務所を移転。2017年8月まで事務所を構えていたAKビルに戻る形となりました



2020年主要居家办公，在2021年伊始时，事務局局成员在神乐坂“比沙门天”合影

昨年はスタッフも在宅勤務が多かったのですが、新年はスタッフ皆で集まって神楽坂比沙門天にて初詣

国立癌研究中心中央医院



黄立江
宁波市第四医院

2019年12月到2020年3月，通过申请“宁波市领军与拔尖人才”科技部引智司（原：外专局）出国项目（消化道早癌的内镜诊治），非常感谢也很荣幸有机会到日本国立癌研中心中央医院（NCCH）消化内镜中心进行了为期近3个月的学习。

通过此次出国研修，我不仅了解到了许多关于消化内镜诊断与治疗的新的专业理论和内镜技术，而且对日本医院的医疗活动和规章制度的部分细节、医学教育体系、日本医生工作生活的情况，以及日本的民俗风情都有了新的认识。

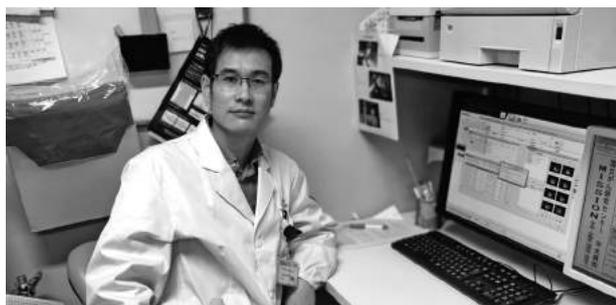
首先，在专业知识方面，学习了解了日本在消化道早期肿瘤的内镜诊断和治疗、胆胰疾病特点和ERCP内镜治疗、EUS诊断和治疗、内镜治疗前镇静技术、术后标本处理等内容。同时也发现了一些值得我们学习的地方，比如常规内镜诊断程序规范细致、内镜室设备和器械完善、工作单元设置完备、工作人员分工细致等方面。

同时，在医疗活动方面，对日本的公立（国立）医院和私立医院的相关情况有了一定的了解。学习了解了日本的医疗保险制度、日本医院的科室内部结构和分工情况等方面的情况。也了解到，日本在对医生和科室方面没有申报课题或获奖的太多要求，很多时候是医生根据自身发展的需求决定的。

日本社会民众间崇尚礼仪，讲究礼让，主动助人，保持传统，社会秩序井然，社会安全稳定，这也是我在日本的一些体会。

在这段学习经历中，有幸认识了众多指导老师、前辈和同行，同时和来自海内外的各国专家建立了良好的互动，收获了可贵的情谊。

在这里，衷心感谢日本国立癌研中心中央医院的各位指导医生和工作人员，感谢日中医学交流中心在研修课程安排、研修单位申请落实等方面的大力协助。



国立がん研究センター中央病院

黄立江
宁波市第四病院

2019年12月から2020年3月まで、「宁波市有望人材」関連の中国科学技術部引智司（元：中国国家外国専門家局）の海外研修プロジェクトを通じて、大変ありがたく光栄なことに、日本の国立がん研究センター中央病院（NCCH）内視鏡センターにて約3か月の学びの機会を得ました。

今回の海外研修を通じて消化器内視鏡の診断と治療のための新しい専門理論や内視鏡技術を学ぶだけでなく、日本の病院の医療活動や関連制度、医学教育システム、日本人医師の働く環境についても理解しました。同時に日本の文化や風習などに関して新しい知見を得ました。

まず専門知識においては、日本の消化器早期腫瘍の内視鏡診断と治療、胆道、膵臓疾患の特徴とERCP内視鏡治療、EUS診断と治療、内視鏡治療前の鎮静術、術後標本処理等について学びました。また、他にも私たちが学ぶべきことがあると気づきました。例えば、内視鏡診断に関して詳細なガイドラインがあること、内視鏡室には設備と医療機器が完全に備えられていること、医療スタッフの勤務環境や設備が整備されていること、よく考えられたスタッフの分業などが挙げられます。

一方、医療活動の視点から、日本の公立（国立）病院と私立病院の関係のある程度理解しました。そして、日本の医療保険制度、日本の病院の診療科構成や役割などについても学びました。また、評価機関の課題クリアや外部機関からの高い評価を得ることは要求されておらず、多くの場合、医師が自身のニーズに基づいて研究しています。

日本人は礼儀を重んじ、エチケットを守り、進んで他人を助け、伝統を重んじ、社会秩序、社会安全は安定しています。これらを私は肌で感じました。

今回の海外研修を通じて、幸運なことに多くの指導者、先輩、同僚と知り合うことができました。同時に国内外の様々な国の専門家との良好な関係を築き、貴重な友情を得ることができました。

ここで、改めまして国立がん研究センター中央病院にてご指導いただいた医師・職員の方々、日中医学交流センターによる研修プログラムや実施への多大なる協力に心より感謝申し上げます。

2021年度日本医学学术会议信息

时间	学术会议	地点
眼科		
04月08日~04月11日	第125回日本眼科学会总会	大阪府
05月29日~05月30日	第59回日本白内障学会总会	东京都
07月02日~07月03日	第77回日本视弱斜视学会总会	东京都
10月28日~10月31日	第75回日本临床眼科学会	福冈县
11月20日~11月21日	第62回日本视能矫正学会	东京都
11月26日~11月27日	第60回日本白内障学会总会	神奈川县
外科		
04月08日~04月10日	第121回日本外科学会定期学术会议	千叶县
04月22日~04月23日	第64回日本手外科学会学术集会	长崎县
05月29日~05月30日	第36回日本皮肤外科学会总会·学术集会	鹿児島県
06月10日~06月11日	第36回肾脏移植·血管外科研修会	长崎县
06月17日~06月19日	第46回日本外科联合会学术集会	东京都
07月15日~07月16日	第26回日本冠状动脉外科学会学术大会	山口县
07月15日~07月16日	第13回日本创伤外科学会总会·学术集会	福冈县
09月18日~09月20日	第57回日本移植学会总会	东京都
11月18日~11月20日	第83回日本临床外科学会总会	东京都
12月01日~12月04日	第48回日本显微外科学会学术集会	茨城县
12月02日~12月04日	第34回日本内窥镜外科学会总会	兵库县
2022年01月27日~01月28日	第32回日本头颈部外科学会总会及学术讲演会	石川县
2022年02月04日~02月05日	第27回日本神经外科急救学会	东京都
2022年03月03日~03月04日	第31回日本头颈部外科学会及学术讲演会	大阪府
内科		
04月09日~04月11日	第118回日本内科学会总会·讲演会	东京都
09月18日~09月19日	第23回日本医院综合诊疗医学会学术总会	宫城县
精神·神经		
04月09日~04月10日	第15回日本精神分裂症学会	富山县
04月09日~04月10日	第44回日本脑神经CI学会总会	岩手县
05月19日~05月22日	第62回日本神经学会学术大会	京都府
05月22日~05月23日	第13回日本焦虑症学会学术大会	北海道
06月05日~06月06日	第44回日本面部神经学会	东京都
07月08日~07月10日	第18回日本抑郁症学会总会/第21回日本认知症疗法·认知行动疗法学会【共同主办】(日本抑郁症学会)	神奈川县
07月10日~07月11日	第62回日本身心医学会总会及学术讲演会	香川县
07月14日~07月16日	第43回日本生物学精神医学会	京都府
07月28日~07月31日	第44回日本神经科学大会	兵库县
09月10日~09月12日	第32回日本末梢神经学会学术集会	和歌山县
10月23日~10月24日	第25回日本心疗内科学会总会·学术大会	宫城县
11月19日~11月20日	第34回日本综合医院精神医学会总会	福井县
病理		
04月10日~04月11日	第37回日本皮肤病病理组织学会总会·学术大会	东京都
04月22日~04月24日	第110回日本病理学会总会	东京都
05月21日~05月22日	第39回日本脑肿瘤病理学会	宫崎县
05月27日~05月29日	第62回日本神经病理学会总会学术研究会	东京都
10月01日~10月02日	第25回日本临床内分泌病理学会学术总会	宫城县
骨·关节·筋肉·整形		
04月14日~04月16日	第64回整形外科学会总会·学术集会	东京都
04月22日~04月24日	第50回日本脊柱脊髓病学会学术集会	京都府
06月17日~06月19日	第47回日本骨科运动医学会学术集会	北海道
06月17日~06月19日	2021日本关节镜·膝盖·运动骨科学会(JOSKAS)/日本骨科运动医学会事务局(JOSSM)会议	北海道
07月02日~07月03日	第47回日本骨折治疗学会学术集会	兵库县

时间	学术会议	地点
07月15日~07月16日	第54回日本骨科学会骨·软组织肿瘤学术集会	广岛县
09月19日~09月20日	第34回日本临床骨科学会学术集会	新潟县
10月01日~10月02日	第30回日本脊柱侧弯症学会学术集会	爱知县
10月07日~10月08日	第30回日本整形外科学会基础学术集会	东京都
11月06日	第27回日本微创骨科学会学术集会	福井县
11月25日~11月26日	第24回日本微创脊柱外科学会	东京都
放射科		
04月15日~04月18日	第77回日本放射线技术学会总会学术大会	神奈川县
04月15日~04月18日	第80回日本医学放射线学会总会	神奈川县
05月20日~05月22日	第50回日本介入治疗学会总会	大阪府
06月11日~06月12日	第57回日本儿科放射线学会	
06月11日	第30回日本定位放射线治疗学会	东京都
07月09日~07月10日	第27回日本血管内治疗学会学术总会	大阪府
儿科		
04月16日~04月18日	第124回日本儿科学会学术集会	京都府
04月28日~04月30日	第58回日本儿科外科学会学术集会	神奈川县
05月01日~05月02日	第37回日本儿科临床过敏学会	东京都
05月07日~05月09日	第65回日本新生儿生长医学学会·学术集会	北海道
05月08日~05月09日	第30回日本新生儿护理学会学术集会	北海道
05月27日~05月29日	第63回日本儿科神经学会学术集会	福冈县
06月04日~06月05日	第49回日本儿科神经外科学会	福冈县
06月18日~06月20日	第34回日本儿科急救医学会学术集会	奈良县
06月18日~06月20日	第68回日本儿科保健协会学术集会	冲绳县
07月08日~07月09日	第16回日本儿科耳鼻喉学会总会·学术讲演会	大阪府
07月09日~07月10日	第56回日本儿科肾脏病学会学术集会	高知县
09月03日~09月05日	第40回日本青春期学会总会·学术集会	神奈川县
10月22日~10月23日	第53回日本儿科呼吸学会学术集会	福井县
12月09日~12月10日	第42回日本小儿肾脏病学学会学术集会	大阪府
老年医学·照护		
05月29日~05月30日	第3回日本居家医疗联合会学术大会	东京都
06月11日~06月13日	第63回日本老年医学会学术集会	爱知县
06月24日~06月26日	第10回日本认知症预防学会学术集会	神奈川县
08月28日~08月29日	第25回日本居家护理学会学术集会	广岛县
09月18日	第25回回皮内诱导胃造瘘(PEG)·居家医疗学会学术集会	东京都
11月17日~11月19日	第32回全国照护老人保健设施大会岐阜	岐阜县
临终关怀		
06月18日~06月19日	第26回日本临终关怀医疗学会学术大会	神奈川县
代谢内分泌		
04月22日~04月24日	第94回日本内分泌学会学术集会	群马县
06月03日~06月04日	第33回日本内分泌外科学会总会	长野县
10月08日~10月09日	第36回日本糖尿病并发症学会	滋贺县
10月30日~10月31日	第47回日本神经内分泌学会学术集会	奈良县
11月04日~11月06日	第63回日本先天代谢异常学会总会·第19回亚洲先天代谢异常研讨会	神奈川县
11月12日~11月13日	第64回日本脑循环代谢学会	岐阜县
11月27日~11月28日	第37回日本糖尿病·妊娠学会年次学术集会	大阪府
2022年02月10日~02月11日	第37回日本临床营养代谢学会学术集会	神奈川县
皮肤科		
04月24日~04月25日	第37回日本临床皮肤科学会总会·临床学术大会	东京都
06月10日~06月13日	第120回日本皮肤科学会总会	神奈川县
07月09日~07月10日	第37回日本皮肤恶性肿瘤学会学术大会	长野县
感染症		
05月07日~05月09日	第95回日本感染症学会学术讲演会 第69回日本化学疗法学会总会 共同学会	神奈川县

NPO法人 日中医学交流中心 JAPAN-CHINA MEDICAL COMMUNICATION CENTER

日中医学交流中心是一所通过医学平台从事中日两国学术交流、人员交流的机构，于1991年以原日本国会议员、原日中友好协会名誉会长宇都宫德马先生、一宫胜也先生、朴顺子女士为中心成立。在成立过程中，得到中国卫生部、中华医学会、中国驻日本大使馆的大力支持。1999年被日本内阁府认定为NPO法人(non-profit organization, 非营利组织)。2007年起，可承接国家外专局(现：科技部引智司)境外培训项目。

成立30年来，日中医学交流中心与日本政府相关机构、各大医院、医学研究机构、医学团体等建立了良好的信赖合作关系，搭建起中日两国医学交流的桥梁，推动了中日两国医学事业的发展。截止2019年，共组织邀请日本专家350余人次访问中国，接待中国医疗卫生相关团体500余，为中国医院管理、医疗卫生领域培训人才近万人。

中心特征:

· 及时把握日本医学领域的最新进展，第一时间将最新信息介绍到中国，组织中国的相关医务人员赴日培训学习。

培训方式:

- 专家授课与参观、见习、学习相结合，团体授课与分组讨论相结合等多种灵活的方式。
- 可按照委培单位的要求制定培训计划并组织实施。

服务内容:

- 对接并实施赴日研修、考察和学术交流
- 组织并实施医学领域各学科的培训、学习
- 企划推进及组织中日间各学科的医学交流国际会议
- 邀请及安排参加在日举办的各学科学术会议等

時間	学术会议	地点
05月07日～05月09日	第96回日本感染症学会学术讲演会	神奈川県
06月22日～06月24日	第1回日本耳鼻咽喉科免疫過敏感染症学会	石川県
06月25日～06月26日	第44回日本骨・関節感染症学会	神奈川県
07月23日～07月24日	第57回日本眼感染症学会	宮城県
検査		
05月07日～05月09日	第46回日本超音波検査学会学术集会	愛知県
05月15日～05月16日	第46回日本乳腺甲状腺超音波医学会学术集会	東京都
05月21日～05月23日	日本超音波医学会第94回学术集会	兵庫県
07月17日～07月18日	第32回日本骨科超音波学会学术集会	奈良県
11月11日～11月14日	第68回日本臨床検査医学会学术集会	富山県
耳鼻咽喉		
05月12日～05月15日	第122回日本耳鼻咽喉科学会总会・学术讲演会	京都府
06月25日～06月26日	第83回耳鼻咽喉科臨床学会总会・学术讲演会	北海道
薬学		
05月13日～05月15日	公益社団法人日本薬剤学会 第36年会	徳島県
05月29日～05月30日	第37回日本治験薬物監視 (TDM) 学会・学术大会	愛知県
06月26日～06月27日	第23回 日本薬品情報学会总会・学术大会	大阪府
06月29日～06月30日	第37回日本薬物伝達システム (DDS) 学会学术集会	千叶県
07月14日～07月16日	第51回日本神経精神薬理学会共同大会	京都府
07月24日～07月25日	2021 医療薬学论坛 / 第29回臨床薬学研討会	沖縄県
10月07日～10月08日	第31回日本臨床神経薬理学会	東京都
11月06日～11月07日	第15回日本薬局学会学术总会	千叶県
11月16日～11月19日	第36回日本薬物動態学会年会	群馬県
消化		
05月14日～05月16日	第101回 日本消化系統内視鏡学会总会	広島県
07月07日～07月09日	第76回日本消化系統外科学会总会	京都府
11月04日～11月07日	第59回日本消化系統癌症検査学会大会	兵庫県
11月04日～11月07日	第102回 日本消化系統内視鏡学会总会 (JDDW2021)	兵庫県
11月04日～11月07日	第19回日本消化系統外科学会大会 (JDDW 2021)	兵庫県
11月04日～11月07日	JDDW 2021 第29回日本消化系統相关学会周	兵庫県
11月12日～11月13日	第76回日本大腸肛門病学会学术集会	広島県
心血管		
05月19日～05月21日	第49回日本血管外科学会学术总会	愛知県
07月08日～07月10日	TOPIC 2021	東京都
08月28日	第39回The Mt Fuji workshop on CVD (第39回富士心血管病研究会)	宮城県
09月17日～09月19日	第69回日本心臓病学会学术集会	鳥取県
10月14日～10月16日	第62回日本脈管学会总会	北海道
10月15日～10月17日	第43回日本高血圧学会总会	沖縄県
10月23日～10月24日	第53回日本動脈硬化化学会总会・学术集会	京都府
呼吸		
05月20日～05月21日	第38回日本呼吸系統外科学会学术集会	長崎県
06月24日～06月25日	第44回日本呼吸系統内視鏡学会学术集会	愛知県
11月12日～11月13日	第31回日本呼吸・回復学会学术集会	香川県
11月18日～11月21日	The 25th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology 第25回亞太呼吸学会代表大会	京都府
护理		
05月25日～06月25日	日本精神保健護理学会第31回学术集会	山形県
06月05日～06月06日	第21回日本運動系統護理学会学术集会	神奈川県
06月11日～06月13日	第46回日本精神科護理学术集会	大阪府
07月17日～07月18日	第27回日本護理診斷学会学术大会	奈良県
08月18日～09月17日	一般社団法人日本護理教育学会第31回学术集会	愛知県
08月28日～08月29日	第25回日本護理管理学会学术集会	神奈川県

時間	学术会议	地点
09月03日～09月04日	第21回日本感染護理学会学术集会	沖縄県
09月11日～09月12日	日本地域護理学会第24回学术集会	東京都
10月16日～10月17日	第28回日本精神護理専門学术会议	富山県
10月31日～11月01日	日本護理技術学会第19回学术集会	愛知県
癌		
05月26日～05月28日	第25回日本癌症分子標向治療学会学术集会	東京都
05月27日～05月28日	第42回癌症免疫外科研究会	山口県
06月04日～06月06日	第60回日本消化系統癌検査学会总会	東京都
06月17日～06月18日	第45回日本頭頸部癌症学会	千叶県
07月01日～07月03日	第25回日本癌症免疫学会总会	和歌山県
07月05日～07月07日	第39回札幌国際癌症研討会	北海道
07月16日～07月18日	第63回日本婦科腫瘍学会学术讲演会	大阪府
07月16日～07月17日	第28回日本癌症預防学会	東京都
07月22日～07月23日	第57回日本肝癌研究会	鹿児島県
07月29日～07月30日	第30回日本癌轉移学会学术集会・总会	鳥取県
10月21日～10月23日	第59回日本癌症治療学会学术集会	神奈川県
11月05日～11月07日	第61回日本臨床化学会年次学术集会	福岡県
11月25日～11月27日	第63回日本小児科血液・癌症学会学术集会	大阪府
11月26日～11月28日	第62回日本肺病学会学术集会	神奈川県
12月16日～12月18日	The APASL Oncology 2021 (2021 肝臓腫瘍学会)	東京都
2022年02月17日～02月19日	第19回日本臨床腫瘍学会学术集会	京都府
2022年02月17日～02月18日	第40回日本口腔腫瘍学会总会・学术大会	群馬県
血液		
05月27日～05月29日	第43回日本血栓止血学会学术集会	宮崎県
09月11日～09月12日	第22回日本検査血液学会学术集会	神奈川県
医療器械		
05月27日～05月29日	第96回日本医療器械学会大会	大阪府
肝胆膵		
06月03日～06月05日	第33回日本肝胆膵外科学会学术集会	大阪府
06月24日～06月25日	第39回日本肝移植学会学术集会	岡山県
09月02日～09月03日	The APASL Single Topic Conference 2021 in Osaka 2021 亞太地区肝臓学会	大阪府
09月22日～09月23日	第52回日本膵臓学会大会	東京都
10月07日～10月08日	第57回日本胆道学会学术集会	神奈川県
腎臓・泌尿器		
06月04日～06月06日	第66回日本透析医学会学术集会・总会	神奈川県
06月18日～06月20日	第64回日本腎臓学会学术总会	神奈川県
10月23日～10月24日	第27回日本血液透析過濾医学会学术集会・总会	広島県
麻酔		
06月19日	第25回日本神経麻酔集中治療学会	北海道
12月04日～12月05日	第125回日本産科麻酔学会学术集会	愛知県
12月10日～12月11日	第43回日本疼痛学会	愛知県
免疫		
07月02日～07月03日	第58回日本消化器免疫学会総会	京都府
10月08日～10月10日	第70回日本变态反应学会学术大会	神奈川県
産科		
07月11日～07月13日	第57回日本産期・新生児医学会学术集会	宮崎県
09月11日～09月14日	第61回日本産科内視鏡学会学术讲演会	神奈川県
11月06日～11月07日	第36回日本女性医学学会学术集会	大阪府
東洋医学		
08月13日～08月15日	第71回日本東洋医学会学术总会	宮城県
11月28日	第39回日本東方医学会	東京都

NPO法人 日中医学交流センター JAPAN-CHINA MEDICAL COMMUNICATION CENTER

日中医学交流センターは、宇都宮徳馬先生、一宮勝也先生、朴順子先生が中心となり、日中両国の医学交流を推進するために1991年に設立された民間交流団体です。当時、中国衛生部、中華医学会、在日中国大使館等より多大なご支援を頂きました。1999年に東京都よりNPO法人の認定を受け、2007年より中国国家外国専局（現：科学技術部引智司）の海外研修受入可能となりました。

当センターは創立以来、日本の多くの医療機関、研究機構、官公庁、医学団体等と良好な信頼関係を築き、日中医学交流の架け橋として、両国の医学発展に寄与してきました。この30年間に当センターが中国に招聘した日本の医療関係者は延べ350人余、中国から受け入れた医療関係訪日団は500団体余、日本で研修を受けた病院管理者や医療・看護スタッフは約1万人に上ります。

センター特徴：

日本医学界の最新状況をタイムリーに把握し、いち早く中国へ紹介するとともに、中国の医療関係従事者の日本での研修を手配・支援します。

研修方法：

専門家による講義や見学、実習、グループディスカッション等、多様な研修方法を組み合わせることにより、委託先のニーズに合わせて、研修計画を作成して実施します。

業務内容：

- ・訪日研修、視察、学術交流等の受け入れとセッティング
- ・各専門領域における研修・学習の企画及び実施
- ・各専門領域における医学交流国際会議の企画推進と実施支援
- ・日本で開催する各種学術会議・フォーラムへ参加するための招聘及び手配等

大坪会集团

特定医疗法人大坪会以通过医疗与福祉奉献社会为理念，由三軒茶屋医院前院长大坪公子医生于1970年1月创立的“三軒茶屋诊所”开始，发展至今。

日本的医疗体系包括老龄化问题等日趋复杂化，医疗的提供仅靠医院尚不充分，还广泛包括社会福祉领域，需要一种不是“从摇篮到墓地前”，而是“从出生前到墓地”的综合性观点对应的体系。因此，我们集团形成了预防医学、综合医院、专科医院，作为中间设施的介护（照护）老人保健设施、日间照护，作为居家医疗的居家照护支援中心、居家护理・照护，老人院等，医疗与福祉相结合的综合性体系。此外，医疗需要病床・研究・教育三大支柱，因此我们从10年前开始创办了大学。

集团旗下的一般财团法人健康医学会开创了日本预防医学的先河，设立了“霞关大厦诊所”和位于新大谷饭店二楼的“东都诊所”（面积为2000平方米）。诊所配备了PET-CT和MRI等各种医疗设备以及教授级的工作人员，提供与综合医院同等水平的门诊医疗服务。为了能做到当天诊断，由专科医师团队提供高水平的综合体检・疾病诊察。此外，旗下的一般社团法人劳动保健协会与生光会在关东地区为主的区域，每年开展巡回体检，为大约100万名的劳动者、居民、学生进行健康管理。

我们开设了医院和家庭之间的中间设施--介护（照护）老人设施，并且成为老人福祉领域的模范设施而不懈钻研。还通过开设特别养护老人院，组建医疗与福祉相结合的综合型关系网络。

为了应对日渐高度发展的医疗技术，于2009年创办了东都医疗大学（现：东都大学），拥有三个校区，分别位于埼玉县深谷市、千叶县千叶市的幕张新都心和静岡県沼津市。此外，还在2008年接管了深谷市大里郡医师会的深谷大里护理专科学校。



- 医院：17设施 ● 诊所：4设施 ● 老人保健设施：9设施
- 特别养护老人院：3设施 ● 障碍者福祉设施：2设施
- 带照护服务收费老人院：1设施 ● 日托照护设施：1设施
- Group Home：1设施 ● 短期入住生活护理设施：1设施
- 健康检查机构：1设施 ● 大学：1设施 ● 护理学校：1设施

大坪会グループ

特定医療法人大坪会は、医療と福祉を通じて社会に奉仕することを理念として、三軒茶屋病院前院長大坪公子が1970年1月に「三軒茶屋クリニック」を開設した事に始まります。

我が国における医療体制は、高齢化問題を含め複雑化しており、単に医療は病院のみでは不十分で、広く社会福祉も含め「ゆりかごから墓場の手前まで」ならぬ「生まれる前から墓場まで」の総合的な観点より対応できるシステムが要求されてきています。そこで、予防医学、総合病院、専門病院、中間施設としての介護老人保健施設、デイケア、在宅医療としての在宅介護支援センター、訪問看護・介護、老人ホーム等、医療と福祉に総合的に取り組んでいます。また医療には、病床・研究・教育の「三本の柱」が必要であり、10年前より大学も設立しました。

一般財団法人健康医学協会は、予防医学としては我が国の草分け的存在であり、「霞が関ビル診療所」とホテルニューオータニの2階にある「東都クリニック」（面積2000㎡）があります。そしてPET-CT、MRIなど各種医療機器と教授クラスのスタッフを取り揃え、総合病院並みの各科外来クリニックとして、即日診断できるよう専門の医師団による高度レベルの人間ドック・検診を実施しております。また一般社団法人労働保健協会と生光会は、関東地区を中心に年間約100万人に及ぶ巡回健診を行い、勤労者、住民、学生の健康管理を行っています。

病院と家庭の中間施設である介護老人保健施設を開設し、老人福祉におけるモデルを目指し研鑽を重ねております。また特別養護老人ホームを開設することで、医療と福祉を総合的ネットワークで組織していきます。

そして、ますます高度化する医療技術に対応すべく、埼玉県深谷市と千葉県千葉市の幕張新都心、静岡県沼津市に「東都医療大学（現・東都大学）を2009年より開学しました。また、深谷市・大里郡医師会の「深谷大里看護専門学校」も2008年に継承しました。



- 病院：17施設 ● 診療所：4施設 ● 老人保健施設：9施設
- 特別養護老人ホーム：3施設 ● 障害者福祉施設：2施設
- 介護付有料老人ホーム：1施設 ● 通所介護施設：1施設
- グループホーム：1施設 ● 短期入所生活看護施設：1施設
- 検診機関：1施設 ● 大学：1施設 ● 看護学校：1施設

联结中日健康产业的 专业商社

着手小局 辛勤耕耘
放眼未来 不断创新
建设平台 携手共赢



REGPARA®
盖平®

盐酸西那卡塞片

*继发性甲状旁腺功能亢进症 管理的基石



协和发酵麒麟(中国)制药有限公司
Kyowa Hakko Kirin China Pharmaceutical Co., Ltd.

【适应症】 本品用于治疗慢性肾脏病 (CKD) 维持性透析患者的继发性甲状旁腺功能亢进症。

【注意事项】 本品用药后, 可能会观察到血钙降低的情况, 因此需密切观察血钙的变化。

【禁忌症】 对本品成份有过敏史的患者。

(详见使用说明书)

中国(上海)自由贸易试验区龙东大道970号
邮编: 201203
电话: 86-21-5080 0909
传真: 86-21-5080 0026

咨询热线: 4008 547878

【批准文号】
国药准字: H20184099

【生产企业】

企业名称: 协和发酵麒麟(中国)制药有限公司
企业地址: 中国(上海)自由贸易试验区龙东大道970号

沪药广审(文)第2020010022号
本广告仅供医学, 药学专业人士阅读



麒麟医学 敬请关注

Kyowa KIRIN